

第四 善感不善感ノ鑑別

- 第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點トナス
- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否
 - 二 痘疱常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否
 - 三 紅暈ハ常形ナルヤ否
 - 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否
 - 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラズモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否
 - 六 痂皮ハ黯褐色又ハ黑色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否
- 第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ
- 接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルヲ無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレバ暫時ニシテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)
- 第二日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコト有リ)
- 第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス
- 第五日ニハ結節細小ノ水泡ト爲リ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル
- 第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ疱ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ疱中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス

第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ焮腫シ微シク疼痛アリ疱中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺エ水脈腺腫起スルコト有リ

第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ疱液化膿シテ白濁或ハ黃色ノ膿稠液ト爲リ疱ノ中央稍々凸隆ス然レバ其形必ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルコト無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ疱ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス

爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ビ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離スセ結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル癩痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス

但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

第二類 第五節 傳染病

第十三條 種痘不善感ノ諸徵ハ左ノ如シ

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ達セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ

圓錐形ト爲リ乾固スレハ黄色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレハ其經過總テ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖也液下ニ疼痛ヲ覺エ微熱ヲ發スルヲ無キニ非ス)

二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル

三 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル

四 第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス

五 痂皮剝脱ノ後ニ遺セル癬痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意

第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗●不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スヘシ

第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト間々アリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可ラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハヌ又別ニ醫藥ヲ要セス

●傳染病取扱手續

○明治十六年一月三十一日甲第九號

明治十四年七月本縣甲第四百號布達中傳染病取扱手續左之通更正候條此旨布達候事

傳染病取扱手續

患者發見ノ通告

第一條 醫師傳染病ヲ診斷シタルトキハ左ノ書式ニ準シ届書ヲ作り直チニ患者所在ノ町村戸長ニ差出スヘシ患者治癒死亡ノ節ハ發病ヨリ轉歸ニ至ルノ時間ヲ詳記シ同様差出スヘシ(明治十六年二月甲第二十一號及十九年三月甲第二十六號ヲ以テ更正)

第二條 衛生委員醫師ノ届書ヲ受クルハ其大旨ヲ傳染病豫防施行録ニ編次ノ上其届書ニ與書調印シ之ヲ所轄郡役所ニ報告シ同時ニ其由ヲ戸長役場並ニ所轄警察署分署交番所ノ内ニ通報スヘシ

但檢疫委員ヲ設置スルノ場合ニ於テハ衛生委員ヨリ直ニ該委員ヘ届出同時ニ戸長役場ニ通報スヘシ

第三條 郡役所ハ衛生委員ノ報告ニ從ヒ醫師届書寫ヲ副ヘ速ニ縣廳ニ開申スヘシ郡役所及ヒ警察署又ハ分署ハ傳染病者アルノ報知ヲ得タルハ速ニ吏員ヲ派遣シ傳染病

第二類 第五節 傳染病取扱手續

豫防規則ニ從ヒ要用ノ外人ト交通ヲ絶スシメ且ツ治療看護方及ヒ豫防消毒方ノ實施ヲ監督セシムヘシ

患者治癒死亡又ハ避病院ニ入ラサルノ間ハ時々吏員ヲ派遣シ前項實施ノ如何ヲ監督セシムヘシ但檢疫委員ヲ設置スルトキ本條ハ都テ該委員ニ於テ取扱フモノトス(明治十七年六月甲第五十九號ヲ以テ追加)

第四條 衛生委員ハ其町村病煙煙滅ニ歸スルルハ直ニ郡役所ヲ經テ縣廳ニ申報スヘシ

第五條 郡役所ハ其部内病ノ發熄時日地名及患者死者ノ人員ヲ詳記シ其時々之レヲ各所ニ揭示スヘシ

第六條 郡役所ハ其部内病勢ノ景狀及豫防消毒方ノ如何治療醫ノ行届ヤ否ヲ視察シ其時々縣廳ニ具申スヘシ

發病者ノ措置

第七條 戶長ハ衛生委員ニ議リ豫メ町村ノ協議ヲ以テ傳染病豫防支出金及ヒ需用物品ヲ備ヘ置起發ノ兆アルニ際シ各般差岡ナキ様注意スヘシ

第八條 兼テ町村協議ヲ以テ其地引受人ナキ行旅患者船中發病者等ノ爲メニ療養所ヲ豫定シ置クヘシ但避病院ヲ設クル場合ニ於テハ其患者ハ該院ニ移スヘキモノトス

第九條 衛生委員ハ醫師發病ノ通告ニ從ヒ速ニ其病家ニ臨ミ豫防法心得書ノ趣旨ニヨリ豫防消毒法ヲ行ハシムヘシ

第十條 衛生委員ニ於テ自家療養行届カスト見認ムルハ病者ヲ避病院ニ送ルコトヲ懇諭スヘシ自家ニテ療養差岡ナキモノハ強テ入院セシムヘカラス但病勢急劇ニシテ危篤瀕死ノ者ト見認ムルハ避病院ニ送ルヘキモノト雖モ一時自家ニテ療養セシムヘシ

第十一條 赤貧患者ハ本籍寄留行旅ヲ問ハス左項ニ該當スルモノヲ云フ
一 地方稅及町村賃ノ賦課ヲ免除シタルモノ並ニ其家族
二 救恤規則ニ據リ救育米ノ給與ヲ仰クモノ並ニ其家族
三 地所家屋ヲ有セス己ノ主非ノ勞力ヲ以テ僅ニ生計ヲ營ミ他ニ補助スヘキ親戚故舊

第十二條 衛生委員ハ行旅人發病又ハ船中病者ノ通知ヲ受クルルハ直チニ其場所ニ就キ引受人ナキ病者ハ速ニ之ヲ避病院又ハ當テ準備セシ療養所ニ移シ其死亡者ハ埋火葬ノ處分ヲナスヘシ(明治十六年三月甲第三十七號ヲ以テ元本條ヨリ次條ヘ繰下但書更正二十一年八月)

第十三條 普通病院ニハ決テ傳染病者ヲ容ルヘカラス

第十四條 病者傳播ノ兆アルルハ郡役所警察署ハ吏員ヲ派遣シ專ラ豫防方ニ從事セシムヘシ

第十五條 各般豫防消毒ノ方法ハ都テ傳染病豫防心得書ニ據リ施行セシムヘシ且其監查ハ衛生委員戶長警察官吏衛生官吏檢疫委員等其當務者ノ責任トス

第二類 第五節 傳染病取扱手續

第十六條 檢船ニ係ル取扱方ハ其時々相違スヘシ

病者死者等運搬ノ注意

第十七條 豫メ町村ノ協議ヲ以病者死者及吐瀉物取扱人夫ノ手續ヲ定メ置キ流行ノ兆アルニ際シ差間ナキ標注意スヘシ

第十八條 前條運搬ノ節ハ必巡查ノ監護ヲ求メ運送ノ途中ニ於テ吐瀉物汚穢物ヲ擲棄スル等ノ弊ヲキ標注目スルヲ要ス

但警察署分署交番所遠隔ノ地及巡查人員稀少ニシテ差支アル所ハ相當取締人ヲシテ監護セシムルモ妨ナシ

第十九條 排泄物汚穢物及病者死者ノ運搬ハ可成人民往復稀疎ナル地ヲ通行スヘシ舟路アル場所ハ船ニテ運漕スルヲ良トス

火葬埋葬ノ處分

第二十條 火葬埋葬ノ節ハ巡查之ヲ監査スヘシト雖モ警察署分署交番所遠隔ノ地及ヒ巡查人員稀少ナル所ハ相當取締人ヲシテ監査セシムヘシ

第二十一條 死體ハ充分消毒法ヲ行ヒ蓋棺シタル上ハ尋常ノ葬儀ヲ行フモ不苦ト雖モ必火葬場又ハ埋葬場ニ於テスヘシ

第二十二條 虎列刺發疹痘瘡ニ罹ル死屍埋葬場ハ其地位ヲ一ニスルモ妨ナシト雖モ墓地ノ分域ヲ區劃シ每區番號ヲ付シ埋葬ノ際混雜ナカラシムルヲ要ス

但場區ノ位置狹キモ方三尺ヲ欠クベカラス且淺キモ棺柩ノ上平地ヨリ六尺ニ充タサル地ニ瘞埋スルヲ許サス

第二十三條 傳染病者死體ハ尋常燒場ニ於テ火葬スルヲ得

避病院設置ノ順序

第二十四條 人民協議費ヲ以テ避病院ヲ設置セント欲スル場合ニ於テハ戶長衛生委員ハ其位置構造及ヒ其概費等取調最寄地況ヲ記載セル圖面ヲ副ヘ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ願出ヘシ但可成空屋等ヲ以テ之レニ宛ルヲ要ス

第二十五條 前條許可ヲ得テ開院シタルモノ病勢衰退閉院ノ節ハ初發ヨリ入院セシ患者ノ員數及全治死亡區分ノ表ヲ製シ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ開申スヘシ

第二十六條 公立避病院ノ設置ヲ要スルニ際シテハ臨時適應ノ措置ヲ施行スルモノトス

檢疫委員職務ノ大旨

第二十七條 檢疫委員ハ受持部内檢疫ニ係ル一切ノ事務及ヒ豫防消毒ノ事ヲ綜理擔任スルモノトス

第二十八條 檢疫委員ハ其命セラレタル部内ニ就キ便宜ノ地ヲ相シ事務所ヲ設ケ戶長衛生委員及所轄郡役所警察署ニ通知スヘシ

第二十九條 檢疫委員ハ其部内戶長衛生委員ヲ指揮シ其職務ヲ執行スヘシ

第三十條 檢疫委員ハ日々新患者ノ醫師ノ診斷書及ヒ舊患者ノ治癒死亡ヲ開申シ一週間毎ニ

第二類 第五節 傳染病取扱手續

部内ノ病勢ヲ具狀スヘシ且所轄郡役所警察署へ全様通報スヘシ
届書式 (用紙半紙界紙) (明治十九年四月甲第五十一號ヲ以更正)
傳染病患者御届

何國何郡何町村番地住或ハ
寄留某父母兄弟妻子女等

職業(定業ナキモハ戸主
何業ト記入スヘシ)
(痘瘡病ニハ職業ノ次ヘ種痘ノ済否及
初再三種セシ年月日ヲ詳記スヘシ)

右ハ何年何月何日午前何時何病ニ罹リ治療中ニ付此段及御届候也

年月日

何郡何町村醫師
姓

名

何郡何町村戸長宛

○明治十六年五月二十四日郡乙第六十八號 郡 町 村

傳染病患者轉歸之節ハ明治十四年本縣甲第四百四號布達傳染病取扱手續ニ明記之通り其時々
必ス可届出答之所往々等關ニ涉リ治死ノ後數月間ヲ經過シ届出或ハ轉歸ノ月日記載セサル
向有之不都合ニ候條精々注意シ右様之義無之様可致此旨相達候事

○明治十八年九月二十八日郡乙第七十九號 郡役所
虎列拉病患者發生シタル時ハ其原因(有病地ヨリ來タルカ又ハ有病地ヨリ來ル者ニ接シタ

ルカ又ハ有病地ヨリ來タル荷物等ニ接シタルカ又ハ特發ノ類)ヲ詳記シ其都度開申ス入シ
此旨相達候事

●傳染病費用支辨方

○明治十六年三月二十七日乙第三十三號 郡 町 村

他府縣下ニ寄留及旅行中傳染病ニ罹リタルモノ身元赤貧ニシテ費用支辨ノ資力ナキモノハ
總テ發病地地方稅ヲ以テ支辨可致答ニ候條爲心得此旨相達候事

○明治二十一年八月三十一日訓令第三百三十一號 島廳 郡役所 戸長役場
傳染病豫防及消毒費支辨區分

傳染病豫防及消毒費支辨區分

左ノ項目ニ屬スル者ハ地方稅衛生及病院費ヲ以テ支辨スル者トス

- 一 檢疫所 檢疫本支部同出張所 船舶檢疫所等 縣立避病院ニ關スル一切ノ費用
- 一 檢疫委員 (國庫支辨ノ吏員ヲ除ク) 檢疫雇吏縣立避病院治療醫調劑員ノ手當及旅費
- 一 檢疫所縣立避病院ニ雇使スル小使看護人夫運搬夫手當
- 一 檢疫委員 (國庫支辨ノ吏員ヲ除ク) 以下夜勤宿直賄料
- 一 電信郵便運送費
- 一 貧困患者治療及賄費
- 一 貧困患者埋火葬及汚穢物燒棄埋却ニ關スル一切ノ費用

一貧困患者家屋消毒及流行時ニ限リ排泄物ニ汚染シタル物品買上費
 一縣立避病院ニ於テ使用スル醫療器械治療藥品消毒藥品及各檢疫所ニ於テ使用スル消毒藥品費
 一流行猛激ノ町村ヘ下付スル消毒藥品費
 一縣令ヲ以テ定メタル交通遮斷費
 左ノ項目ニ屬スル者ハ町村費衛生費ヲ以テ支辨スル者トス
 一町村縣立避病院ニ關スル一切ノ費用
 一町村醫師其外雇入諸費
 一患者死者汚穢物運搬人夫費但資カアル者ハ各自ノ支辨タルヘシ
 一埋火葬汚穢物燒棄埋却ニ關スル費用但全上
 一患者死者ノ家屋消毒及排泄物消毒費但全上
 一貧困患者家族隔離中救恤費
 一隔離室及一家遮斷ニ關スル諸費但資カアル者ハ各自ノ支辨タルヘシ
 ◎明治二十一年八月三十一日訓令第三百二十二號 島廳 郡役所 戶長役場
 明治十六年一月本縣甲第九號布達傳染病取扱手續第十一條ニ基ツキ六種傳染病ニ罹ル赤貧患者救濟費支辨手續別冊ノ通相定ム
 (別冊)

六種傳染病ニ罹ル赤貧患者救濟費支辨手續

第一條 本縣傳染病取扱手續第十二條ニ該當スル赤貧患者ニシテ六種傳染病ニ罹ル者ハ此手續ニ據リ地方稅ヲ以テ其諸費ヲ支辨ス
 第二條 地方稅ヨリ支辨スヘキ費用ハ左ノ各項定額以內トス
 但定額以外ノ費用ヲ要スル場合ニハ事實ヲ具シ縣廳ノ許可ヲ受クベシ
 一醫師診察料及藥價ハ其部開業醫組合ニ於テ定ムル所ニ據ル
 一看病人一日一人金貳拾五錢以內
 一患者死體排泄一日一人ニ付金貳拾五錢以內
但棺桶並付屬品埋火葬用具火葬燃料人夫賃共
 一死體埋火葬費死者一人ニ付金貳圓以內
 一排泄物燒棄費金五拾錢以內
但運搬器具燒棄燃料人夫賃
 一消毒藥費金貳圓以內
 但死體、排泄物、家屋ノ消毒藥並人夫賃
 一汚穢物品買上代金五拾錢以內
 一患者膳料一日金五錢以內
 第三條 前條ノ費用ハ戶長ニ於テ一時經費ヲ以テ繰替拂ヲナシ患者轉歸後三十日以內ニ縣

第二類 第五節 傳染病費用支辨方

廳へ請求スベシ

第四條 戶長請求書ニハ費用仕譯書正當請取人ノ領收證書醫師ノ診斷書及本縣傳染病取扱手續第十一條ノ項目ニ該當セシ證明書ヲ添付スベシ

但寄留者及行旅人ナルハ原籍戶長ニ照會シ其證明書ヲ添付スベシ

第五條 島廳郡役所ニ於テ戶長ノ請求書ヲ受領シタルハ精密調査ノ上事實相違ナキ旨ヲ副申スベシ

第六條 病毒汚染ノ物品ニシテ燒棄ヲ要スル者アルハ警察官吏ノ立會ヲ乞ヒ其品名及相當見積代價ノ取調書ヲ製シ立會人ノ認印ヲ受ケ費用請求書ニ添付スベシ

第七條 行旅人傳染病ニ罹リタルハ行旅死亡人取扱規則ニ據ルベシ

●醫師派遣規則

○明治二十一年八月三十一日縣令第八十四號

醫師派遣規則左ノ通相定ム

醫師派遣規則

第一條 傳染病流行若クハ病勢猛激ヲ極メ其町村ニ於テ治療行届カサル場合又ハ傳染病ノ鑑定地方病ノ調査ヲ爲ス必要アルハ縣廳ヨリ醫師ヲ派遣ス

第二條 島司郡長警察署長ニ於テ前條派遣ノ必要ヲ認メタルハ其實況ヲ詳悉シ縣知事へ具申スベシ

但島司ハ至急ヲ要スルハ限り醫師ヲ派遣シテ後其實況ヲ詳悉シ縣知事へ具申スルヲ得

第三條 傳染病治療並鑑定若クハ地方病調査ノ爲メ派遣スル醫師ハ一日貳圓以内ノ手當ヲ支給ス

第四條 旅費ハ内國旅費規則ニ據リ六等旅費ヲ支給ス

但俸給アルモノハ各其規則ニ依ル

第五條 第三條ニ據リ派遣ノ際携帶スル器械運搬費ハ實費ヲ支給ス

第六條 傳染病治療ノ爲メ派遣スル醫師ニ於テ治療ニ要セシ藥價ハ該町村戶長ニ於テ病家ヨリ徴收シ之ヲ派遣醫師へ送付スベシ

但傳染病豫防取扱手續第十二條ノ場合ハ此限りニアラス

●種痘施術並痘苗

○明治十七年十月七日甲第四百十號

本年八月本縣甲第四百五號布達ニ因リ内科及外科眼科産科開業免許ヲ受ケタル醫師ハ自今種痘術ヲ施行スルヲ得

本縣下開業醫師ニシテ種痘施術スルモノハ其旨郡役所ヲ經テ届出ヘシ

本縣ヨリ下付セシ種痘術免許証ハ本月中郡役所へ差出スベシ郡役所ハ右取絡メ十一月十日限リ進達スベシ(明治十七年十月甲第四百四十五號ヲ以更正)

第二類 第五節 傳染病 醫師種痘

右布達候事

○明治十一年四月二日乙第五十二號 各區區長
 種痘醫タル者ハ常ニ痘苗貯蓄可致置管之處近來貯蓄方不注意ヨリ臨時痘苗下付之儀出願候
 向往々有之不都合之事ニ候條自今痘兒ニ種痘シ又ハ毛管ニ貯蓄スル等適宜取計何時モ種痘
 差支無之様可致注意尤春秋兩季左之通配當可致ニ付其他臨時下苗ヲ乞フ向ハ一具金貳拾五
 錢ヲ以拂下候條毎年七月兩度取廻メ可願出此旨種痘醫へ可相達候事
 一痘苗配賦方因伯隱石ハ一大區ハ一具ツ、出雲ハ一郡ハ一具ツ、并松江七ヶ區エ一具
 ○明治十五年七月五日乙第七十四號 郡、町、村
 牛痘苗拂下願自今春秋ハ十二月二十日限リ郡役所へ爲願出郡役所ニ於テ願書取廻メ全月中
 員數開申スヘシ此旨相達候事

●種痘人名簿

○明治十八年三月二日乙第三十二號 郡、町、村
 種痘細則第六條ニヨリ戶長ニ於テ調製スル種痘人名簿ハ別紙書式ニ據ルヘシ此旨相達候事
 (明治十八年十二月乙第六十二號十九年一月乙第六號ヲ以更正)
 (別紙)

種痘人名簿雛形

用紙美濃紙

事 故	種痘期年月日	接種年月日	善感不善感	種痘醫姓名	何郡何町何番地
	初種ニ當ル年月日 (何年何月何日ヨリ 何年何月何日まで)	初種セシ年月日 何年何月何日	善感 左何願 右何願 不善感	何郡何町 何誰	族 長ニ三男女若 誰クハ養子女弟等 何誰 何年何月何日生
	再種ニ當ル年月日 同前	再種セシ年月日 同前	同 同 同 同	同 同	寄留ノ者ハ本籍ノ次へ寄 留地ヲ記スヘシ
	三種ニ當ル年月日 同前	三種セシ年月日 同前	同 同 同 同	同 同	
臨時種痘年月日 何年何月何日	同 同	同 同	同		

解釋

- 一 初種ニ當ル年月日ハ初生ヨリ滿一ケ年マテノ年月日ヲ記入シ再種ニ當ル年月日ハ初種セシ日ヨリ滿五ケ年乃至七ケ年ノ年月日ヲ記入スヘシ三種モ亦此例ニ據ル
- 一 初種不善感ニシテ更ニ滿一ケ年以内ニ復種セシ者ハ其年月日ヲ初種セシ年月日欄内ニ順次記入スヘシ而シテ再種ニ當ル年月日ハ最後ニ接種セシ年月日ヨリ計算スルモノトス
- 一 種痘規則第一條第二條ノ期限ニ拘ハラズ接種セシモノハ都テ記入セサルモノトス
- 一 臨時種痘ノ欄内ヘハ種痘規則第三條ニ據リ接種セシモノ、ミヲ記入スルモノトス
- 一 再種ハ若シ不善感ニシテ屢々復種セシモノト雖モ其三種ニ當ル年月日ハ最初ニ接種セシ日ヨリ起算スヘシ
- 一 種痘期限内ニ接種スル能ハサルモノハ其事由ヲ事故欄内ニ詳記スヘシ

●種痘細則

(明治十八年十二月二十五日甲第百六十九號)

種痘細則別紙之通相定明治十九年一月一日ヨリ施行ス此旨布達候事

但明治十八年二月本縣甲第四十二號布達天然痘豫防細則ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙)

種痘細則

第一條 種痘ハ毎年二回(三月ヨリ六月マテ九月ヨリ十一月マテ)定期施行スヘシ

第二條 種痘規則第三條ノ施行ヲ要スル時ハ其時々告示スヘシ

第三條 種痘ノ期日及ヒ場所等ハ其都度戸長之ヲ町村内ニ告知スヘシ

第四條 醫師ヨリ附與スル所ノ種痘及天然痘ノ證書ハ甲乙號書式ニ準據スヘシ

第五條 種痘規則第四條ノ届書ハ丙號式ニ準據スヘシ

第六條 戸長ハ豫テ種痘人名簿ヲ製シ置キ毎年二回種痘定期ニ先ダチ十六年未滿ノ種痘ヲ爲スヘキ者ヲ抜録シ漏ナク種痘ヲ勸奨スヘシ

第七條 戸長ハ種痘規則第六條ノ届書ヲ受領シタルトキハ種痘人名簿ニ種痘濟又ハ天然痘濟ノコトヲ記入シタル上證書ハ該簿ト割印シテ本人ニ返付スヘシ(明治十九年二月甲第

二十五號ヲ以テ第七條削除以下順次條ヲ繰上ク)

第八條 町村費ヲ以テ種痘ヲ施行シ又ハ赤貧ニシテ種痘料ヲ支辨スルコト能ハサル者ヲ救

助スルコトヲ得ヘシ

第九條 醫師收入スル所ノ種痘料ハ初種一人ニ付金五錢以下再三種一人ニ付金三錢以下タ

ルヘシ

第十條 醫師ハ各種痘期ニ先チ痘苗ノ準備ヲナシ種痘ノ期日ヲ定メテ其門戸ニ揭示シ且開

業醫組合部内ノ戸長ニ通知スヘシ

第十一條 醫師種痘ヲナスハ明治十八年四月本縣甲第七十四號布達種痘施術心得書ニ據ル

ヘシ且種痘ノ檢診ヲナシ其初種ニシテ不善感ナルモノ若シ病氣又ハ事故アリテ復種シ難

キ片ハ後日復種ヲ怠ルヘカラサルヲ示スヘシ

第拾二條 未決已決監繫留ノ囚徒ニシテ種痘期ニ該當スルモノハ監獄署ニ於テ種痘シ其善感不善感又ハ種痘期内ニ接種シ能ハサルノ事由若クハ天然痘濟ノ事ハ其時々本籍戸長ニ通知シ置キ種痘及天然痘濟ノ證書ハ出監ノ節直チニ本人ニ交付スヘシ此場合ニ於テハ豫テ監獄署ニ種痘人名簿ヲ製シ置キ其記入及證書ト割印等ノ手續ハ司獄官ニ於テ之ヲ爲スヘシ(明治十九年一月甲第九號ヲ以追加第十三條第十四條トモ)

第拾三條 十六歳未満ニシテ他府縣ヨリ本縣ニ入籍又ハ寄留スル者ハ其際種痘及天然痘濟ノ證書ヲ入籍又ハ寄留地ノ戸長ニ差出スヘシ戸長ハ種痘人名簿ニ記入ノ上本人ニ返付スヘシ

第拾四條 前條入籍又ハ寄留ノ者ニシテ曾テ病氣或ハ事故アリテ種痘ヲ爲サ、リシ者ハ其事由ヲ詳記シ入籍又ハ寄留地ノ戸長ニ届出ヘシ戸長ハ先方戸長ニ照會ノ上之ヲ種痘人名簿ニ記入スヘシ

甲號書式 用紙西ノ内八ツ切

種痘証

此制
何府何縣何町何番地住
何縣何郡何村何番地住
族誰長二三男若クハ
族誰長二三男若クハ
役長
印
印

乙號書式 用紙西ノ内八ツ切

天然痘証

同前
(族籍其他甲號書式ニ據ル)

ニ於テ種痘人名簿ト押切ルヘシ
寄留ノ者ハ本籍ノ次 何 某
寄留地ヲ記スヘシ 生年月日
左何願善感(若クハ不善感)
右何願善感(若クハ不善感)

右者本期ニ於テ再種痘
濟ニ付證明候也
(臨時種痘ノ者ハ「本期ニ於テ初再」
「三」トアルヲ「臨時」ト記入スヘシ)

島根縣何郡何番地住

寄留ノ者ハ本籍ノ次

ヘ寄留地ヲ記スヘシ

年月日 開業醫 何 某

(明治二十年四月縣令第四十六號ヲ以更正)

丙號書式 用紙半紙

種痘延期御届

(族籍其他甲號書式ニ據ル)

右ハ何年何月中天然痘
濟ニ付證明候也

(以下甲號書式ニ據ル)

右者^初種痘期節ニ相當
 候處別紙^三(証書)ノ通り
 此度種痘難致候ニ付此
 段御届仕候也
 右父兄
 年月日 何 某
 戸長姓名宛

娼妓檢黥規則

○明治二十一年六月十二日縣令第十六五號
娼妓檢黥規則別紙ノ通相定ム

但明治十七年八月木縣丙第三號檢黥規則ハ廢止ス
(別紙)

娼妓檢黥規則

第一條 娼妓ハ一週日毎ニ檢黥所へ檢査証票ヲ携帶出頭シテ黥毒有無ノ檢査ヲ受クヘシ
但檢査ノ日割ハ豫メ驅黥院ヨリ告示スヘシ

第二條 娼妓營業免許ノ鑑札ヲ受ケタル者ハ當日所轄檢黥所へ出頭シ檢査ヲ受クヘシ
第三條 檢査定日自己ノ疾病ニテ出頭シ難キハ貸席取締連署ノ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添
へ檢査時限前檢黥所へ届出ツヘシ此場合ニ於テハ醫師往檢スルモノトス

第四條 檢査定日ヲ超ヘテ免許地外ニ宿泊セントスルハ並ニ歸席(失踪)シタル日ハ當日
所轄檢黥所へ出頭シ檢査ヲ受クヘシ
第五條 廢業セントスルトキハ驅黥院又ハ所轄檢黥所へ出頭シ檢査ヲ受クヘシ

第六條 檢査定日外ト雖モ黥毒ニ感染シタリト自覺スルハ臨時檢査ヲ受クヘシ
第七條 檢査當日ニハ警察官吏取締トシテ立會フヘシ
第八條 檢査スルニ當テハ付添婦ヲシテ立會ハシムヘシ

第九條 檢査ノ上黥毒アリト認ムル者ハ松江ハ驅黥院ニ入院セシメ其他ハ當分自宅加養ヲ
許ス
但自宅加養ノ者ト雖モ檢黥所ニ出頭シ治療ヲ受クルモノトス其病症ニ因リ檢黥所へ出
頭シ難キ者ハ自宅ニ就キ治療スヘシ

第十條 驅黥院ノ治療ヲ受クルモノハ藥價一劑金五錢以下ヲ徴收ス(明治二十二年三月縣
令第三十三號ヲ以テ更正第十二條トモ)

第十一條 黥毒全治ノ上ハ驅黥院醫員ヨリ全治証ヲ受ケ貸席取締連署ノ上所轄警察署又ハ
分署へ届出ツヘシ

第二類 第五節 傳染病 娼妓檢黥規則

第十二條 檢黽所ハ免許地毎ニ一ヶ所ヲ設置ス
但便宜ニ依リ甲乙合併設置スルコトアルベシ

第十三條 貸席取締ハ檢査當日檢黽所ニ出頭シ諸事不都合ナキ様取扱フベシ (明治二十二年三月縣令第三十三號ヲ以テ第十三條削除以下順次條ヲ繰上ク)

第十四條 娼妓轉居其他異動アルハ貸席取締ヨリ驅黽院又ハ檢黽所ヘ届出ツベシ

第十五條 此規則第一條第二條第三條第四條第十一條第十五條ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス (明治二十一年十二月縣令第百十號ヲ以テ更正ス)

○明治二十一年六月二十二日告示第六十四號
本縣驅黽院ヲ松江和田見新地ニ移轉シ來ル十五日開院ス

沿革要領 明治八年四月甲第百六十三號種痘規則ヲ定ム (全年八月甲第百四十三號九年七月甲第百五十四號更正) ○全年四月乙第百四十九號種痘取扱條例ヲ定ム (全年八月乙第百廿八號九年七月乙第百九十九號全年十一月乙第百三十七號更正) ○九年三月乙第百四十一號流行病或ハ變症治式ヲ定ム見部ノ醫師ヨリ爲届出即日縣廳ニ上申スヘキ旨達

○全年十月乙第百三十一號種痘取締ヲ松江病院ニ委任ニ付右ニ關スル事件ハ同院ヘ協議シ其願同府等ハ院醫圖書ヲ添ヘ進達スヘキ旨出雲國ヘ達 ○十年五月甲第百四十八號八年甲第百六十三號布達全年乙第百四十九號達ヲ廢シ種痘條例ヲ定ム

○全年八月乙第七十六號十一年二月乙第二十九號更正全年七月乙第七十七號全上其出納簿ニハ總代人ノ檢印ヲ徵セシム

○全年六月甲第百八十一號種痘條例頒布ニ付種痘醫ヲ私宅ニ招キ又ハ醫師ノ自宅ニ於テ施術スルヲ禁ス ○十一年四月乙第五十四號則業免許醫ノ外種痘術ヲ差止メ從前下波ノ鑑札返納セシム ○十一年十月甲第百八十五號種痘條例其他本縣限リ種痘ニ關スル布達廢止種痘條例ヲ定ム ○十二年九月甲第百六十六號種痘委員ヲ設置シ心得書ヲ定

△ (全年九月甲第百八十四號更正) ○全年十一月乙第百二十號コレラ病死者埋葬地全排泄物燒棄場等取調心得達 ○十三年五月乙第三十六號醫師コレラ病死者ヲ診察シタルハ戶長役場醫務者ヘ通知スヘキ旨達 ○十四年七月甲第百五號傳染病者死屍埋葬場全吐瀉物埋却場設置心得達 ○全年七月甲第百六十六號心得書廢止 ○全年七月乙第五十二號發疹塗抹所標式ヲ定ム ○全年七月乙第五十六號十二年乙第二十二號達廢止 ○全年十二月甲第百七十七號十一年甲第百八十五號種痘附例更正 (十六年七月甲第六十三號更正) ○全年十二月乙第九十號種痘流行ノ節醫員派遣規則ヲ定ム

○十五年三月甲乙第十八號種痘鑑札寫書ハ本年郡乙第九號全十二號ニ準ジ取扱ハシム ○全年三月丁第九號種痘檢査場規則全治黽所規則ヲ定ム (全年四月丁第十七號十六年六月丁第九號更正) ○全年三月丁第十號種痘檢査場檢査場規則全治黽所規則ヲ定ム (全年四月丁第十七號十六年六月丁第九號更正) ○全年四月甲第七十號六傳染病治式ヲ定ム (十六年二月甲第廿二號更正) ○全年四月乙第四十六號十四年乙第五十二號達廢止 ○十六年五月甲第五十四號六傳染病留書式中職業記載方布達 ○十七年八月丙第三號檢査規則ヲ定ム (二十一年四月縣令第四十五號更正) ○十八年二月甲第四十二號天然痘預防細則ヲ定ム (二十一年九月甲第百八十五號十四年甲第百二十七號布達廢止) ○全年三月甲第五十三號十四年甲第百五號布達廢止 ○十九年三月甲第三十六號十五年甲第七十號布達廢止

七 清潔法

● 道路掃除及溝渠下水廁圍塵捨場取締規則

○明治十九年四月十七日甲第四十六號

道路掃除及溝渠下水廁圍塵捨場取締規則別紙之通相定メ明治十一年一月本縣甲第十六号同十三年八月本縣甲第四百五號同十五年二月本縣甲第三十四號布達ハ廢止ス此旨布達候事但從來設置セル溝渠下水廁圍塵捨場ニシテ此規則ニ觸ル、モノハ來ル五月三十一日マテニ改造スヘシ若シ右期限内ニ改造シ能ハサルモノハ事情ヲ具シ郡役所ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

(別紙)

道路掃除及溝渠下水廁圍塵捨場取締規則

第一條 道路ノ掃除ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ負擔スヘシ但特ニ其負擔ノ定メアルモノハ此限ニアラス

- 一 其兩側居住人ニ於テ道路ノ中央ヲ限界トシテ折半之ヲ負擔シ其片側ナレハ一方ノ居住人ニ於テ負擔スヘシ尤モ廣場橋詰火除地等ノ類ニ接スルモノハ屋敷地外五間ヲ限リトス但空家空屋敷ノ周圍ハ其所有主ノ負擔トス
- 二 屋敷地ニ接セサル道路廣場橋上及市街村落以外ニ係ル道路橋梁ノ掃除ハ該地元町村ノ負擔トス

第二條 道路ノ掃除ハ市街及ヒ人家稠密ノ村落ニ於テハ常ニ之ヲ行ヒ其他ハ毎月一回已上之ヲ行フヘシ

但暴風雨等ノ後ハ其都度必ス掃除スヘシ

第三條 道路ノ掃除ハ塵芥雜草及不潔物ヲ除去シ凸凹高低ノ箇所ハ適宜砂利等ヲ加ヘテ平坦ナラシメ都テ其形體ヲシテ變損ヒシム可ラス

但市街ニ在テハ降雪ノ堆積シタルハ道路ノ中央四尺以上之ヲ除クヘシ

第四條 並木等ノ風折雪折若クハ倒木等道路ニ遮キルモノハ差向キ通行ニ差支ナキ様取片付ケ置キ直ニ戸長ニ届出ツヘシ若シ其樹木各自ノ所有ニ係ルモノハ速ニ取除クヘシ

第五條 戸長ニ於テ前條ノ届ヲ得タルハ速カニ郡長ニ届出ツヘシ

第六條 溝渠下水ノ滲漑ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ負擔スヘシ

但特ニ其負擔ノ定メアルモノハ此限ニアラス

一 各自所有地ノ周圍ハ該地主ニ於テ負擔スヘシ

二 兩個ノ地ノ中間ニ在ルモノハ雙方ノ地主ノ負擔トス

第七條 市街地ニ在ル溝渠下水ノ構造ハ左項ニ從フヘシ

- 一 溝側ニハ石材木材ヲ用ヒ又ハ土樋陶器ヲ埋設シ汚液ノ地中ニ滲透スルヲ拒クヘシ
- 二 人家ニ接シタルモノハ被蓋雨水ノ流入ニ妨ヲ設クヘシ

三 一定ノ廣サ深サノ外肥料溜ニ類スル裝置ヲ爲スヘカラス

四 公衆ノ用ニ供スル飲料井水ニ接近シタル場所ハ前各項裝置ノ外石材或ハ木材ヲ用ヒ溝底ヲ設クヘシ

第八條 溝渠下水ノ滲漑ハ市街及人家稠密ノ村落ニ於テハ毎年二回十月之ヲ施行シ其他ノ地方ニ於テハ路傍ニ在ルモノハ該道路掃除ノ時々其他ハ適宜ニ之ヲ施行スヘシ

但淤泥塵芥等疏通ヲ壅塞スルカ又ハ官ヨリ臨時浚漑ヲ命シタルハ其時々施行スヘシ

第九條 前條着手ノ期日ハ戸長之ヲ定メ郡長及警察署又ハ分署ニ報告シ人民各自ノ負擔ニ係ルモノハ豫メ其人民ニ告知スヘシ

第十條 市街ニハ適當ノ場所ヲ撰ミ一町村若クハ數町村内ニ一ヶ所若クハ數ヶ所ノ厠固所又ハ小便所塵捨場ヲ設ケテ公衆ノ用ニ供スヘシ其位置ハ戸長之ヲ撰定シ其敷地坪數近傍人家井川ノ距離並ニ構造スヘキ圖面ヲ添ヘテ郡長ニ伺出ツヘシ若シ其敷地借地ナルハ地主ノ承諾書ヲ添フヘシ若シ之ヲ廢スルハ届出ツヘシ

第十一條 公衆ノ用ニ供スル厠固塵捨場ヲ自費ニテ建設セント欲スルモノハ前條ノ手續ニ據リ本人ヨリ郡長ニ願出ツヘシ

第十二條 厠固塵捨場ヲ設廢若クハ改修シタルハ警察署又ハ分署へ届出テ検査ヲ受クヘシ

第十三條 厠固及塵捨場ノ構造位置ハ左項ニ從フヘシ

第二類 第五節 清潔法

一 厠圍ニハ屋形ヲ設ケ雨水ノ侵入及外見ヲ拒キ其大便所ニハ必ス戸ヲ設ケ且ツ適當ノ位置ニ窓ヲ造リ空氣ノ流通ヲ宜クスヘシ

二 屎尿溜ハ石材又ハ陶器素焼ニアラヲ用ヒ其周圍ハ石敷又ハ「タ、キ」等ヲ爲シ汚液ノ地中ニ滲透スルヲ拒キ大便所ノ踏板ハ糞池ヲ距ル壹尺五寸已上ノ高サヲ要ス

三 厠圍ハ道路ニ背面スヘシ若シ不得止道路ニ面スルハ必ス見隠シヲ設クヘシ

四 塵捨場ハ地面ニ板張り石敷又ハ「タ、キ」等ヲ爲シ其周圍ハ緊密ナル板圍ヒヲ爲シ汚液ノ地中ニ滲透若クハ汚物ノ散亂スルヲ拒クヘシ

五 厠圍及塵捨場ハ飲料用井川ヲ距ル五間已上ニシテ人家ニ接近セサルヲ要ス

六 道路ニ厠圍ヲ設クルハ其路傍五尺以内ノ場所及ヒ曲リ角ヨリ貳間以外ノ場所ニ限ル尤モ溝渠上ニ設クヘカラス

但他ニ設置スルノ場所ナキハ特ニ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 厠圍及塵捨場ハ其所有主ニ於テ屎尿塵芥ノ堆積セサルニ先チ時々取除クヘシ尤モ一定ノ受負人ヲ定メテ之ヲ爲サシムルハ適宜タルヘシ且ツ其所有主及受負人ノ住所姓名ハ其厠圍及塵捨場ニ掲付スヘシ

第十五條 市街及左ノ道路ニ接シタル場所ニ於テハ各自所用ノ厠圍ト雖モ沿道ノ軒下若クハ道路ニ面シテ之ヲ設クルヲ許サス尤モ他ニ設置スヘキ場所ナキハ郡長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一國道

一 宍道ヨリ赤名ニ達スル道路

一 濱田ヨリ市木ニ達スル道路

第十六條 溝渠ノ浚渫厠圍塵捨場ニ係ル一切ノ費用ニシテ一町村若クハ數町村ノ共同負擔ニ屬スルモノハ其關係町村費ヲ以テ支辨シ一個人ノ負擔ニ係ルモノハ各自辨タルヘシ但從來ノ慣行若クハ特約アルモノハ此限ニアラス

第十七條 町村共同ノ負擔ニ係ル道路ノ掃除ハ戸長ニ於テ豫テ組合ヲ設ケ其組合ノ受持丁場ヲ定メ置クヘシ

但從來ノ慣行アルモノハ之レニ從フモ妨ケナシ

第十八條 此規則ニ掲グル市街トハ當分左ノ場所及ヒ之レニ接續シタル町村ノ一部トス

松江 安來 廣瀬 大東 木次 平田 今市 杵築 大田

大森 郷田 濱田 益田 津和野 西郷港 温泉津

第十九條 第四條私有ニ係ル風折雪折倒木等ノ取除キヲ怠リ又ハ第七條第十三條ニ違ヒタル溝渠下水厠圍塵捨場等ノ改造修繕ヲ怠リ官署ノ督促ヲ受クルモ之ニ應ヒサル者及第十條第十二條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス(明治十九年四月甲第五十九號ヲ以テ除二十二年六月縣令第七十一號ヲ以テ更正)

○明治二十一年一月十八日縣令第十四號

本年縣令第七號ヲ以テ街路取締規則施行ニ付明治十九年^四月本縣甲第四十六號布達道路掃除及溝渠下水廁間塵捨場取締規則中清潔法ニ係ル條件ハ松江市街及之ニ接續シタル町村ニハ適用セス

○明治十九年四月十七日甲第四十七號
市街村落中ニ流通スル河川ニ汚穢物ノ停滯スルハ地元町村ニ於テ速カニ取除クヘシ此旨布達候事

●獸畜死屍取締規則

○明治二十年二月二十一日縣令第十八號

獸畜死屍取締規則別冊ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス
(別冊)

獸畜死屍取締規則

第一條 獸畜ノ死屍ヲ燒棄又ハ埋沒スルハ一定ノ場所ニ限ルヘシ

第二條 獸畜ノ死屍燒棄場又ハ埋沒場ハ町村若クハ數町村人民協議ノ上左項ニ從ヒ繪圖面ヲ添ヘ物代二名以上ノ連署ヲ以テ設置方縣廳ニ願出ツヘシ

一燒棄場ハ人家ヲ距ルコト凡ソ百二十間以上ノ場所ヲ撰ミ臭煙ヲ防クノ裝置ヲ爲シ周圍ニ堀塙ヲ設クヘシ

但山林原野等ニテ人家ニ遠隔シタル場所ハ本文ノ裝置ヲ爲サハルモ妨ケナシ

一埋沒場ハ人家ヲ距ルコト六十間以上ニシテ國道井川等ニ沿ハス土地乾燥飲料水ニ障害ナキ場所ヲ撰ムヘシ

第三條 獸畜ノ死屍ハ成ルヘク燒棄スヘシ若シ燒棄シ難キトキハ六尺以上ノ地下ニ埋沒スヘシ

第四條 獸畜ノ死屍解體場ヲ設置シ其業ニ從事セントスル者ハ第二條第二項ニ適スル場所ヲ撰ミ戶長ノ與印ヲ以テ近接地主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘク廢業ノ旨ハ其旨届出ツヘシ

但飼主自ラ解體シ肥料ヲ製セントスルモノモ本文ノ場所ニ於テスヘシ

第五條 解體場ニハ豫テ帳簿ヲ製シ置キ獸名並元飼主及賣渡人ノ住所姓名解體ノ月日ヲ記載シ置クヘシ

第六條 解體場ハ専ラ清潔ヲ主トシ汚物ノ棄却スヘキモノハ第一條ノ場所ニ於テ燒棄又ハ埋沒シ肥料ニ化製スルモノハ堅牢ナル桶又ハ溜壺ヲ設ケ之ヲ密閉シ泄漏及臭氣ノ發散ヲ防クヘシ

第七條 解體場内ニ於テハ左項ヲ爲スヲ得ス

- 一肥料ニ化製セサル肉及内臟ヲ他ニ賣渡スコト
- 一食料ニ供スル獸類ヲ解體スルコト
- 一傳染病ニ罹リタル獸類ヲ解體スルコト

第二類 第五節 清潔法

第八條 獸畜死屍燒棄物及埋沒場解体場ニハ左ノ標木ヲ建ツヘシ
但解体場ノ外圍ニハ適宜ノ塼柵ヲ設クヘシ

四寸角

高地上六尺



第九條 解体場ニハ衛生官吏警察官吏臨檢スルコトアルベシ
第十條 第二條第四條第七條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス(明治二十年六月縣令第六十九號ヲ以更正)

沿革要領

明治六年二月四日公衆用便所設置心得ヲ定メ各地ニ設置セシム○全年二月十八日道路掃除丁場ヲ定メ標木ヲ立テシム○十一年一月甲第十六號便所下水ヲ溜槽掃除心得ヲ定メ○十三年八月甲第四百十五號道路掃除方布達○十五年二月甲第三十四號道路掃除規則ヲ定ム(十六年三月甲第三十五號全年十月甲第九十八號更正)○十六年六月乙第八十二號河川等ニアル犬糞、死屍其他不潔物ハ其町村ニ於テ一定ノ地ニ於テ埋藏却スヘキ旨達○十八年四月丙第二號松江市街及接續地周圍掃除設置心得ヲ定ム○十九年四月乙第五十四號十六年乙第八十二號達廢止○全年四月丙第六號十八年丙第二號號布達廢止

八 墓地 埋火葬

●墓地及埋葬取締細則

○明治十八年三月十日甲第五十三號

明治十七年^十月^十太政官第二十五號布達第八條ニ據リ墓地及埋葬取締細則別紙ノ通相定來四月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治十四年^七月^七本縣甲第五號布達及明治十七年^六月^六本縣甲第六十一號布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙)

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地ハ從前許可シタル場所ニ限ル

但從前許可ノ場所ト雖^五第三條ニ適合セザル位置ハ漸次改廢ヲ命ズルコトアルベシ

第二條 已ムヲ得サル事情アリテ墓地ヲ新設シ又ハ從前ノ區域ヲ取廣メントスルモノハ其事由ヲ具シ圖面ヲ添ヘ戶長衛生委員ノ與書ヲ得部役所ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ

但許可ヲ得タル^七ハ願書并ニ圖面ノ寫ヲ添ヘ其旨所轄警察署ヘ届出ツヘシ

第三條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ツル凡六十間以上ニシテ土地商燥飲用水ニ障リナキ地ニ限ル

第四條 墓地及火葬場ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタ

第二類 第五節 墓地埋火葬

ルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ慣習アルモノハ此限ニアラス
死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スヘキモノトス

傳染病者(虎列刺、痘疹、霍乱、瘧疾)ノ死屍ハ一定ノ墓地ニ埋葬スベシ尤モ止ムヲ得サルハ通常墓地
ノ一隅ヲ區劃シ其内ニ埋葬スルヲ得此場合ニ於テハ某病者ノ死屍タル墓標ヲ樹ツ可シ

但火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルハ此限ニアラス

第五條 墓地ノ周圍墓地ト墓地ニ非サルニハ樹木ヲ栽ユヘシ

墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラス

但從前ヨリ現存スルモノハ此限ニアラス

第六條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及火葬ノ遺骨
ヲ埋藏スルハ格別ナリトス

但六尺ニ至リ難キ事由アルモノハ管理者ヨリ豫メ其旨ヲ具シ所轄警察署ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第七條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上ニ位ヒサル地ヲ
撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲ爲シ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔テタル場所ナルハ唯周圍ニ塀牆ノミヲ設クルモ妨ケナ
シ

第八條 火葬場ヲ新設シ又ハ既設ノ區域ヲ廣メントスルハ都ヘテ第二條ニ據ル可シ

第九條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フ可シ

第十條 火葬場内ニハ遺骨ヲ埋藏スヘカラス又火葬焼場外ニ於テ死屍ヲ燒クヘカラス火葬
シタル灰燼ハ該場内ニ一定ノ場所ヲ定メ埋却ス可シ

第十一條 墓地火葬場ノ樹木ハ猥リニ伐採スヘカラス若シ之ヲ伐採セントスルハ其事由
ヲ具シ縣廳ニ出願ス可シ

第十二條 墓地火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ル可カラス

第十三條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其住所身分姓名ハ戸長役場ニ届出ツ可シ

但管理者ハ其關係ノモノニテ之ヲ撰フ可シ(明治十八年十二月甲第百六十八號ヲ以中
刪除)

第十四條 墓地火葬場ニ關スル諸費ハ其關係人民ニ於テ支辨ス可シ(明治十八年十二月甲
第百六十八號ヲ以更正)

第十五條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ左ノ届書若クハ證書ヲ添ヘテ死亡地戸長
ノ認許証ヲ乞フ可シ

一 主治醫ノ死亡届書

一 醫師ノ治療ヲ受クル猶豫ナクシテ死亡シタル者ハ醫師ノ檢案書

一 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルハ醫師若クハ産婆ノ死産證

一 變死ニ係ルハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ受ケタルモノ

一 囚徒ノ死屍ニ係ルキハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ受ケタルモノ
第十六條 改葬ヲ爲ントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ戸長衛生委員ノ奥書ヲ得テ所轄警察署へ
出願ス可シ

一 已ニ埋葬シタル墓地名及改葬セントスル墓地名
一 死者ノ族籍身分職業姓名及死亡時ノ病名

一 改葬ヲナサントスル者ノ族籍身分職業姓名及改葬セントスル事由
第十七條 碑表ヲ建設セントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ所轄警察署へ出願ス可シ

但死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建設者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊
等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ出願ニ及ハス

一 建設ノ場所及碑表ノ寸方

一 誌銘傳贊等碑表ニ彫刻若クハ書載ス可キ碑文若クハ題字及撰文者ノ族籍身分姓名
一 建設者ノ族籍身分姓名

一 刑死ニ係リタル者ノ碑表ナルキハ裁判官渡書ノ寫
第十八條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル戸長ノ認許證及警察署ノ許可證ヲ每三ヶ月ニ編纂

七月十月限リ所轄警察署又ハ分署ノ檢閱ヲ受ケ之ヲ戸長役場ニ差出ス可シ(明治十九
年十二月縣令第五十六號ヲ以更正)
第十九條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置ク可シ

第二十條 第四條第二項第三項第六條第十條第十三條第十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹
圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(明治二十二年六月縣令第五十八號ヲ以更正)

○明治十八年七月二十八日乙第百九號 郡役所 戸長役場 衛生委員
墓地及埋葬取締細則第十九條ニ據リ管理者ニ於テ調製スル墓籍ハ左ノ書式ニ據ラシムヘシ
此旨相達候事

墓籍書式

何郡町村何番地字何々墓地

一 第何號墳墓

何基

所有

何

某

一 第何號墳墓

何基

所有

何

某

參考

一 同一所有者ノ墳墓ニシテ同一區畫内ニ在ルモノハ一筆ニ記シ其區畫ヲ別ニスルモノハ各
別ニ記スヘシ

一 現存ノ墳墓ニシテ所有者明瞭ナラサルモノハ所有不詳ト記スヘシ

一 墳墓ノ番號ハ墓地ノ形狀ニ由リ其次第ヲ整ヘ彼此錯雜セサル様順次ニ記番ヲ付スヘシ

一 新設墳墓ノ番號ハ在來ノモノ、後タルヘシ但在來設ケアル墳墓ノ區畫内ニ設置スルモノ
ハ別ニ番號ヲ附セス其基數ヲ改ムヘシ

一 改葬又ハ合葬スルモノアルキハ其時々加除スヘシ

一墓籍、墓地毎ニ調製スヘシ

○明治十九年一月十九日乙第八號 郡役所 戸長役場
從來耕地等へ私ニ墓地ヲ設置シ埋葬仕來リノ者客年四月六日本縣無號諭達ニ準シ墓地成ノ
申告ヲナセシモノニ限り客年三月本縣甲第五十三號墓地及埋葬取締細則ニ準シ更ニ墓地新設
之儀出願セシムルニ不及候條此旨相達候事

○明治十八年十二月二十五日甲第六十六號
墓地ヲ距ル丁六十間以内ノ場處ニ於テ新ニ家屋ヲ建築スルコトヲ禁ス
但本文ノ距離以內ト雖モ從來家屋建築仕來ノ場處及其接續地ハ此限ニアラス
右布達候事

●埋葬認許

○明治十八年三月十日乙第三十九號 郡町村
本年^本本縣甲第五十三號布達墓地及埋葬取締細則第十五條ニ據リ戸長ヨリ認許證ヲ發付シ
及該屆書證書ノ取扱方ハ左ノ手續ニ據ルヘシ此旨相達候事
但明治十六年^ハ本縣乙第一百號達ハ廢止ス
一戸長ニ於テハ細則第十五條ニ掲グル屆書又ハ證書ヲ領收スルニ非レハ認許證ヲ發付スヘ
カラス

一醫師産婆ヨリ出シタル屆書證書ハ每一ヶ月分ツ、編纂シ衛生委員ニ渡シ衛生委員ハ之レ

ニ據リ死亡表ヲ編製シ而ル後之ヲ戸長ニ返付シ戸長ハ之ヲ保存スヘシ

一認許證ハ左ノ書式ニ據リ調製シ認許證元簿ト割印シテ之ヲ付與スヘシ尤モ火葬ノモノニ

ハ認許證二葉^{火葬認許證ト遺骨ノ埋葬認許證}ヲ付與スヘキモノトス
埋葬(火葬)認許證(明治十八年七月乙
第百八號ヲ以更正)

何府縣何國郡町村何番屋敷
族籍何誰父母兄弟妻子等

一病名又ハ死胎
職業 姓 名
(死胎ノ證書ニハ姓名ノ下ヘ分婉ノ二字ヲ加ヘ職業年齢ヲ除クヘシ) 年 齡
元簿ト割印

戸長役場印
變死又ハ刑死ナレハ變死又ハ刑死ト記スヘシ

一死亡又ハ分婉ノ年月日時
寄留又ハ宿泊中死亡セシモノナレハ何郡何町村何誰方寄留又ハ宿泊中ト付記スヘシ
右前記ノ通死亡又ハ死胎分婉シタルニ付埋葬(火葬)スルコトヲ認許ス

第二類 第五節 墓地 埋火葬

島根縣何郡何町村

戸長姓名印

年月日

沿革要領 明治十一年五月甲第四百號火葬場ヲ要スルモ、ハ其場所ヲ出願セシメ場外ニ行フモノハ處分スヘキ旨
 布達○十二年十月甲第二百一號墓地ハ神佛ヲ區畫スルニ及ハサル旨布達○十四年十二月甲第九十三號從來ノ死亡届ノ
 手續ヲ更メ死亡届并埋葬規則ヲ定ム(十五年一月甲第一號全年三月甲第四十八號全年四月甲第七十九號更正)○十五年
 十一月乙第十四號墓地制限ヲ定ム○十六年七月甲第七十二號死亡及流産死胎分焼燬並埋火葬規則ヲ定ム(十四年甲第
 百九十三號布達ヲ廢ス)○全年八月乙第十號全上取扱手續達○十七年六月甲第六十一號墓地火葬場取換規則ヲ定ム○全
 年六月乙第七十八號十五年乙第四百十四號達ヲ廢ス

九 病院 貧民救療

● 病院設立手續

○明治九年四月廿二日甲第二百二十二號

今般内務省ヨリ達ノ趣モ有之自今公私立病院設立候節ハ左ノ書式ノ通取調可願出候事

公立病院設立願モ、及、府縣稅ヲ以、民費ノ幾分ヲ扶助スルモ、ハ全府縣稅ヲ以、設立スル
 私立病院設立願モ、及、府縣稅ヲ以、民費ノ幾分ヲ扶助スルモ、ハ全府縣稅ヲ以、設立スル
 一 病院位置 一 第何區何國何郡何村何番地

一 名 稱 一 公立何々病院
 一 院 則 一 患者診察ノ手續入院料藥價診察料差等ノ類

一 教 則 一 醫學生徒教場ヲ附屬スルモノハ教科ノ品目順序等

一 院長以下醫員履歷
 一 院長以下醫員給料
 一 每一人一ヶ月金何程

第二類 第五節 病院 貧民救療

一 病院費用

書籍器械等入費 一ヶ月金何程
 營繕入費並諸雜費 一ヶ月金何程
 雇人給料 一ヶ月金何程
 右費用總計 一ヶ月金何程

右之通設立仕度此段奉願候也
 右之通設立仕度此段奉願候也
 右之通設立仕度此段奉願候也

年號 月 日

島根縣長官宛

願人 族籍 姓 名

右之通管内無洩相達スル者也

●松江病院治療規則

○明治十九年十二月三日縣令第五十一號

島根縣松江病院ヲ元島根縣醫學校跡へ設置シ治療規則別紙ノ通相定本月二日ヨリ開院ス

(別紙)

島根縣松江病院治療規則

總 則

第一條 本院ハ主トシテ管内衆庶ノ疾患ヲ診察治療シ以テ醫道ノ改進ヲ計ル所トス

第二條 患者ノ診察治療ヲ分チテ入院往診外來ノ三種トシ各其規則ノ手續ニ從フヘシ

第三條 診察時間ハ午前九時ヨリ午後三時マテトシ其他ノ時間ハ宿直醫員ニ於テ之ヲ取扱フモノトス尤モ重症急患ノモノハ何時ニテモ診察治療ヲ施スヘシ

但時候ニヨリ本文時限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第四條 藥價及治療用物品代價ハ左ノ範圍ニ於テ徴収スヘシ

一 內服藥ハ一劑ノ代金二錢以上五錢以下

一 外用藥ハ一劑ノ代金二錢以上四錢以下

一 治療用物品ハ都テ原價ニ據リ相當代價ヲ定ム

第五條 投藥ヲ受ケタル者ハ前條ノ價格ニヨリ即時ニ其料金を納ムヘシ

但入院患者ハ此限ニアラス

第六條 診察料及手術料ハ納ムルニ及ハス

第七條 貧困ニシテ重病ニ罹リ藥價ヲ償フ能ハサル者ハ親屬連署ノ上藥價ノ免除ヲ願出ツル時ハ詮議ノ上之ヲ免除スルコトアルヘシ

但願書ニハ地戸長ノ公證ヲ要ス

第八條 患者診察休日ハ左ノ如シ

一月一日ヨリ三日マテ

定例祝祭日

第二類 第五節 病院 貧民救療

日曜日

十二月二十九日ヨリ三十一日マテ

但休日ト雖宿直ノ醫員及ヒ各地出張ノ醫員ニ於テハ診察治療ヲ施スモノトス

入院規則

第九條 入院ヲ乞フ者ハ其由受付ニ申出テ醫員ノ指揮ヲ待ツヘシ

但傳染病其他病症ニヨリテハ入院ヲ許サ、ルコトアルヘシ

第十條 入院許可ヲ得タル者ハ保證人連署ノ上左式ノ證書ヲ出スヘシ

但保證人ハ松江市街居住ノ身元慥ナル戸主ヲ要ス若シ松江市街中保證人ト爲ル者ナキ時ハ本縣在籍ノ身元慥ナル戸主ヲシテ保證セシムルヲ得

證書式(幼少ノモノノ入院セシムル時ハ本文書式ノ意ニ準シ其父兄ヨリ證書差出スベシ)

証

自分僮病患ニ罹リ入院治療ヲ受ケ候ニ付テハ御規則堅ク可相守若シ本人身上ニ於テ事故出來候節ハ保證人ニ於テ都テ引受ケ可申仍テ證書差出候也

何府縣郡町村番地住或ハ寄留

年月日

本人 姓名

印

島根縣何郡何町村番地

保證人 姓名

印

松江病院御中

第十一條 病室料夜具火鉢藥瓶炭油料及看メシムヘシ

一等 室一

二等 一室二人

三等 一室三人

一日分

金拾五錢

一日分

金拾錢

一等

一日分

金七錢

二等

一日分

金七錢

三等

一日分

金七錢

一等

一日分

金拾五錢

二等

一日分

金拾錢

三等

一日分

金七錢五厘

但物價ノ昂低ニ由リ臨時増減スルコトアルヘシ

第十三條 看護人及夜具等ハ本院備付ノ物ヲ以テ病者ノ使用ニ充ツルト雖本人ノ望ミニヨ

リ別ニ看護人ヲ連レ來リシ者ハ其旨受付ヘ届置クヘシ

第十四條 藥餌病室料食餌料ハ毎月三回(十日二十日三十日)ニ之ヲ納ムヘシ

但退院ノ節ハ本文期日ニ係ハラス即時ニ完納スヘシ

第十五條 患者入院ノ上ハ進退起臥食餌及他人ニ應接スル等都テ本院職員ノ指揮ニ從フヘシ

第二類 第五節 墓地 埋火葬

往診規則

第十六條 往診治療ハ患者ノ病症ニ由リ來院シ難キ者及ロ遠隔ノ地ニ在リテ容易ニ來院シ難キ者ノ爲メニ之ヲ設クルモノトス

第十七條 遠隔ノ地ニハ時々醫員ヲ派遣シ適當ノ位置ヲトシ期日ヲ定メ最寄患者ヲ集メテ診察治療セシムヘシ

但位置及期日ハ別ニ告示スヘシ

第十八條 往診ヲ乞フ者ハ患者ノ住所姓名病狀等ヲ受付ニ申出テ差圖ヲ待ツヘシ

第十九條 往診ヲ受クルトモ其旅費等ハ一切差出ニ及ハス

外來診察規則

第二十條 本院ニ來リ診察治療ヲ乞フモノハ其住所姓名年齢職業ヲ受付ニ申出テ小札ヲ受取り扣所ニ在リテ呼出シヲ待ツヘシ

第二十一條 診察治療濟ノ上付與ヒラル、處方箋ヲ受付ニ出シ藥價ヲ收メ而後其方箋ヲ藥局ヘ出シテ調藥ヲ乞フヘシ

第二十二條 診察所ヨリ渡シタル姓名札ハ其後治療及投藥ヲ乞フ時必ス持參シテ受付ニ差出スヘシ

貧民救療規則

○明治十八年三月七日甲第四十九號

貧民救療規則別紙之通相定メ來七月ヨリ施行候條此旨布達候事

貧民救療規則

第一條 赤貧者疾病ニ罹リタル時ハ町村費ヲ以テ救療スヘシ

第二條 赤貧者ト認ムル者ハ概略左項ニ據ルヘシ

一 地方稅及町村費ノ賦課ヲ免除シタル者并其家族

二 親戚ニ於テ救助スヘキ者ナキ者

三 官費地方稅町村費ヲ以テ救育米ノ給與ヲ受クル者并其家族

第三條 赤貧者ノ救療ハ郡醫若シクハ縣立病院ニ限ルヘシ

第四條 郡醫ヘ支給スヘキ藥價ハ縣立病院ノ規則ニ從フヘシ

第五條 赤貧患者ニシテ治療ヲ受ケントスルモノハ戶長役場ニ申出治療券ヲ申受ケ郡醫又ハ縣立病院ニ就キ治療ヲ受クヘシ尤甲醫ヨリ乙醫ニ轉スルモハ更ニ治療券ヲ申受クヘシ

第六條 郡醫又ハ縣立病院ハ治療券ニ據リ治療ノ后一ヶ月毎ニ藥價ヲ戶長役場ニ請求スヘシ且治療費ニシテ他ノ醫師ニ轉スルカ又ハ轉歸ノ片ハ治療券ヲ戶長役場ニ返納スヘシ

第七條 戶長ハ豫テ町村衛生費中貧民救療費ヲ徴收シ置キ郡醫又ハ縣立病院ノ請求ニ應シ支出スヘシ

第八條 惡疫流行ノ際ニハ別ニ醫員ヲ派遣シ救療セシムルコトアルヘシ

第九條 治療券ハ左ノ書式ニ據ルヘシ

第二類 第五節 病院 貧民救療

番號	施療券
何郡何町番屋敷	族籍
姓名	生年月
戸長	○一戸長檢印
役場	右疾病ニ罹ルヲ以テ此證ヲ附與ス○一衛生委員檢印
割印	年月日 何郡何町
	戸長役場 印

沿革要領 明治九年十月甲第三百卅八號松江公立病院假規則ヲ定ム(全年二月丙第四十二號十年一月丙第十七號更正十一月丙第廿四號生徒入退學察規則追設)○十一年六月甲第百六十四號全上私費生徒入察心得ヲ定ム○十二年六月甲第百十八號松江公立病院ヲ松江醫院ト改メ生徒募集規則ヲ定ム○全年七月甲第百廿三號松江醫院病者心得ヲ定ム○全年九月甲第百七十六號松江醫院規則ヲ定ム本年甲第百廿三號布達廢止(全年十一月甲第百十五號全年十二月甲第百四十六號十三年三月甲第三十六號十五年三月甲第五十四號十六年三月甲第百五十五號全年十月甲第百三

十三號更正)○十七年四月甲第四十號全上規則中更正往診規則ヲ定ム○全年六月甲第六十九號松江醫院ヲ廢シ醫學校並縣立松江病院ヲ置ク○全年六月甲第七十四號松江病院治療規則ヲ定ム(十八年二月甲第卅九號十九年甲第四十號更正)○全年六月甲第七十六號濱田ニ松江病院出張所ヲ置ク○全年七月甲第八十四號醫學校規則ヲ定ム(十八年六月甲第百十七號十八年九月甲第百四十二號十九年三月甲第三十九號更正)○十八年六月甲第百十五號松江病院ヲ醫學校ニ付屬シ濱田出張所ヲ廢ス○全年六月甲乙第四十五號醫學校ノ組織乙種ヲ甲種ト改正ノ義達○十九年十一月縣令第四十七號醫學校廢止

十 統計

● 地方病患者表

○明治十五年十二月二十七日甲第百六十七號

本縣地方病左記之通假定候條來十六年一月以後該患者ヲ治療セシ醫師ハ別紙手續及表式ニ準シ製表シ毎年七月廿日限り町村戸長衛生委員へ差出スヘシ戸長衛生委員ハ該表取纏メ七月限り郡役所ヲ經由進達スヘシ此旨布達候事(明治十八年十月甲第百四十八號及十九年二月甲第百十七號ヲ以更正刪除手續中共)

- 間 歇 熱
- 腺 病
- 脚 氣
- 慢 性 胃 加 答 兒
- 癩 麻 質 斯 肺 勞
- 特 異 神 經 病

犬神附狐附ト稱フル類ヲ云

(別紙)

地方病患者表調査手續

- 一 醫師ハ別紙表式ニ準シ豫テ用紙ヲ調整置キ地方病ト診斷スルトハ其時々掲載シ半年毎ニ小計ヲ附スヘシ
- 一 前期中發病ニシテ後期へ持越ノ患者ハ後期表へ朱字ヲ以記載スヘシ
- 一 治療中甲地ヨリ乙地ニ轉居シ又ハ甲醫ヨリ乙醫ニ轉療ノモノハ人員重複スルモ甲乙患者表ニ編入スヘシト雖モ甲表ハ轉歸ヲ記セズ乙表ハ發病月日ヲ記セサルモノトス
- 一 寄留人ハ其寄留地ニ編入スヘシ

變産御届

何郡何町村族籍何某妻 又ハ母長男 某妻

何 條 誰

當何月何十年何ヶ月

- 一 變産ノ景况 (逆産)
- 一 産兒ノ生死男女ノ別(生男)
- 一 變産ノ原因
- 一 變産セル度数 (幾度)
- 一 受胎ノ年月 (何年何月)
- 一 變産ノ年月 (全上)
- 一 職業 (何)
- 一 治療法

右變産ニ付此段御届仕候也

何郡何町村醫或ハ産婆

何 條 某 印

年月日

縣 令 宛

第二號

變産御届

(記載方第一號ニ全シ以下共)

- 一 變産ノ景况
- 一 産兒ノ生死男女ノ別
- 一 變産ノ原因
- 一 變産セル度数
- 一 受胎ノ年月
- 一 變産ノ年月
- 一 職業

右變産候ニ付此段御届仕候也

何郡何町村族籍

何 條 某 印

年月日

縣 令 宛

變産届心得

- 一 變産ノ景况ハ逆産横産等及仔胎畸兒ノ類ヲ記載スヘシ
- 一 但畸形ハ其景状ヲ詳記シ又ハ圖面ヲ添ヘシ
- 一 産兒生死ハ一旦呼吸シテ后チ死亡セシモノハ其死ニ至ルノ時間ヲ記入スヘシ
- 一 變産ノ原因ハ孕胎中變産ヲ誘起スル因トナルヘキ非常ノ勞働又ハ急性病ニ罹ルノ類其

第二類 第五節 統計 變産届

盲		病名職區		廢疾職業區別表		何郡	
何々	小計	業別	區別	男	女	小計	何町
		先天性現業	后天性現業	病后天前	職業發	小計	
		男	女	男	女	男	
		男	女	男	女	女	
		合計				合計	

郡何		郡名		變產統計表		明治何年分	
小計	何村	何町	郡村名	變產景狀	變產原因	變產數	受胎月
				男變原	女兒生別	度變	胎月
				產因	死原	變	職
				產	變	產	業
				因	原	年	產
				度	變	受	年
				變	原	胎	齡
				數	產	月	
				年	業	職	
				胎	產	業	
				月	年	產	
				職	齡	年	
				業		齡	
				產			
				婦			
				年			
				齡			

○明治十九年一月十六日乙第四號 郡役所 戸長役場
 種痘明細表式別紙之通相定候條戸長役場ニ於テハ每半年分一町村コトニ統計シ七月十日限
 リ所管郡役所へ差出シ郡役所ニ於テハ一郡コトニ統計シ七月廿日限り本縣へ差出スヘシ此
 旨相達候事
 但客年十月本縣乙第百三十八號達中種痘并未種痘人員調書ハ自今廢止ス
 用紙美濃紙

何郡、町、種痘明細表

明治何年上下半期

區別	初種		再種		三種		合計
	善感	不善感	善感	不善感	善感	不善感	
滿二年以上							
滿一年以上							
滿二年以上							
滿五年以上							
滿十年以上							
滿十五年以上							
十五年以上							
合計							

合計

種痘規則第三條ニ據リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス表末ニ於テ其人員及ヒ感否ノ別ヲ附記
 スヘシ

疾病事故ニテ種痘セサルモノ、調ハ滿十五歳以上ノ者ヲ算入スヘカラス（明治十九年四月
 乙第五十六號ヲ以追加）

●人口戸數表

○明治十九年六月三日郡乙第五十三號 郡役所

人口戸數表左ノ通相定候條毎年十二月三十一日ヲ以テ調査シ翌年二月十五日限り差出スヘ
 シ此旨相達候事（明治二十二年二月訓令第三十五號ヲ以更正）
 但客年分ハ本月二十日限り差出スヘシ

町村名	人口數	戸數	現在
向郡			明治 年 月 日
町			
村			
合計			

一人口ハ本籍人ヲ本トシ他へ寄留陸海軍在營卒逃亡失踪ノモノヲ除キ他ヨリ寄留ノモノヲ

生年	慶應二年生		同元年生		元治元年生		生年不詳		合計	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
第一類										
第二類										
第三類										
第四類										
第五類										
第六類										
第七類										
第八類										
第九類										
第十類										
第十一類										
第十二類										
合計										
第七類 ノ内 肺病										

一 人口壹萬以上ノ都市ニ於テハ特ニ其都市内ヲ一括シ本表ト共ニ差出スヘシ
一 死亡者病類ハ十六年七月衛達第五十號及全年九月衛達第七十二號達ニ據ルヘシ

十一 雜

○明治十六年十月十二日甲第九十五號

中毒患者屆書式左ノ通相定候條此旨開業醫へ布達候事

用紙適當野紙

何中毒患者御屆

某郡某町幾番邸

華士族平民父母兄弟妻子等

何 條 某

年 齡

職 業	體 質	中毒前他病ノ有無	毒品名稱並ニ飲食セシ量	毒品產出地
		他病有ルモノハ病名及病狀ノ大略ヲ記載スヘシ	飲食物ハ其割烹法容器ノ品名(容器ハ鑲屬製陶器ノ別)動物ハ雄雌及肉骨内臟ノ別新鮮腐陳等植物ハ花葉實根皮熟否等	藥品着色料ハ製煉地或ハ販賣人住地姓名動物ハ漁獵セシ地植物ハ生産地瓦斯類ハ發生地ノ概況等

第二類 第五節 雜

併食ヒン品名並ニ量	
飲食セシ日時	
飲食セシヨリ中毒セシマテノ時間	

現症

治法 (急性ニシテ直ニ轉歸ニ至ルモノハ發病ヨリ轉歸ニ至ルマテノ時間ヲ此處ニ明記シ別ニ轉歸届ヲナスニ及ハス)

右御届仕候也

年月日 縣令宛

用紙同上

何中毒患者轉歸届

某郡某町幾番邸

華七族平民某父母兄弟妻子等

何條某

年 齡

某郡某町幾番邸

醫師

何條某印

右何月何日午前第何時何中毒ニ罹リ替テ御届仕置候處何月何日午前第何時全治候ニ付此段御届仕候也

年月日

縣令宛

某郡某町幾番邸

醫師

何條某印

○明治十六年十月十二日甲第九十七號

飲食物ノ中毒藥品ノ誤用等ニ罹ル患者ハ發病時及轉歸ノ節醫師届書ヲ請求シ(發病時ハ毒藥品ハ「アレニール」或ハ「クリスリン」届出ツヘシ尤モ醫師ノ診斷ヲ受ケサルモノハ自家届書ニ中毒品名中毒症狀ヲ記載(毒物相)届出轉歸ノ節發病時ヨリ治癒又ハ死亡ニ至ルマテノ時間ヲ記シ更ニ可届出發病後時間ヲ經スシテ轉歸ニ至ルモノハ發病届ニ發病後轉歸ニ至ルノ時間ヲ記入シ別ニ轉歸届ヲナスニ及ハス

但明治十二年一月本縣甲第十八號及全十四年十月全甲第七十一號布達ハ廢止ス

右布達候事

○明治十九年三月五日甲第三十四號

中毒患者届出方之義ニ付テハ明治十六年十月本縣甲第九十七號ヲ以テ及布達候處右ノ内醫師ノ診斷ヲ受ケスシテ死亡シタルモノハ自家ノ届書ニ醫師ノ檢按書寫ヲ添ヘテ可差出此旨布達候事

○明治十七年二月八日甲第十五號

中央衛生會委員ドクトルベルツ氏ヨリ別紙肺肝二病意見書差出候趣ヲ以テ調査方其筋ヨリ照會越候條右ニ應答スル病症發見候ハ、其主候ヲ概記シ人名住地職業年齡等ヲ併セ報告書ヲ作り所轄郡役所ヲ經テ本廳へ可差出此旨開業醫へ布達候事

(別紙)

ドクトル、ベルツ氏意見書

余一千八百七十八年而來日本國ニ於テ肺「チヌトマ」(Distomapulmonale)ト稱スル一種ノ寄生蟲ニ由リテ起ル一新病ヲ發見シ之ヲ寄生蟲咯血(Parasitishæmoptoe)ト名ケリ抑此疾病ハ日本ノ外ニ於テハ唯二人、台灣人カ病ミタルヲ有リテ其他ハ余カ曾テ治療シタル一人ノ朝鮮人ニ之ヲ見シヲ有ルノミナレト日本ニ於テハ實ニ不問ニ措ク可カラサル一大疾患ナリ然レモ余モ亦嘗テ該病患者ニ就キテ未タ蟲卵ヲ發見セサル前ハ唯肺勞トノミ認定シタルヲ以テ隨テ診斷豫後及ヒ治療モ亦其當ヲ得スノ大ニ考按ニ苦ミシト多カリキ該病ハ今日日本ニ夥シク之アリ余一人ニテモ百人以上ノ患者ヲ認メタル程ナレハ衛生上ニ於テハ最注意ヲ加ヘ其國中ニ存スル實況ヲ究メンカ爲官府ニ於テ特ニ該病ノ統計法ヲ舉行セラレントハ最モ緊要ノ件ト爲スヘシ然ルレハ該病ニ罹ル者ノ多寡及ヒ其死ヲ免ル、カ否ヲ知ルヲ得テ公衆ヲレテ其所患ノ狀況ヲ曉ラシメ且ツ其蔓延ノ勢ヲ抑制スルヲ得ルニ至ラシムルト亦疑ナカレヘシ此理由ヲ以テ余ハ謹テ衛生局ニ向ヒテ建言シ切ニ望ム苟モ顯微鏡

ヲ用ヒテ診斷ヲ施行シ得ルノ醫師アル病院ヨリハ此寄生蟲咯血病ノ數ニ就テ報告ヲ蒐集セラレントヲ余カ從來ノ經驗ニ據リテ考フルニ該病ハ日本ノ西南ノ兩地方殊ニ岡山縣熊本縣ノ如キ山多キ地ニ多ク存セル者ナラン

余ハ亦六年來一種ノ肝臟病ヲ發見シタリ其病候ハ肝臟顆粒變性或ハ肝臟癥毒ト甚タ相似タレト病原及其他諸多ノ關係ニ於テハ全ク二病ト異ナル者ナリ此疾病ハ今迄學問上ニモ未ダ論シ來ラサル所ニシテ且余ヘ未タ曾テ其解剖ヲモ行ハサレハ病變ノ實況如何ニ至リテハ之カ明辨ヲ爲スヲ能ハス唯該病ハ寄生蟲ヨリ起ル者ト想像スルニ止ルノミ因リテ余ハ曾テ余ガ知ル舊生徒、諸縣病院へ赴任スルニ當リテハ皆該病ニ注意アラントヲ依頼シタリ然ルニ頃日岡山ニ於テ行ヒタレハ解剖ニ據レハ同地ニ在リテモ尙ホ寄生蟲該病ノ原ト爲レリ因リテ考フルニ或ハ全國處々ニ地方病ト爲リテ存セル者ナランカ

故ニ余ハ海濱ニ位セル府縣各地方ノ住民間ニ於テ肝臟肥大、下利、食食及ヒ羸瘦ノ四大症候ヲ具フル疾病ノ地方病ノ狀ヲ爲シテ現存セルカ否ヲ知ランカ爲特ニ其報告ヲ徵集セラレントヲ切望ス特ニ他國ニ於テ未タ曾テ見サル所ノ此疾病ニシテ已ニ現ニ岡山縣下ニ行ハル、ノ實況アレハ衛生局ニ於テ最モ注意ヲ要セラルヘキト信スルナリ

一千八百八十二年十二月十四日

ドクトル、エルヴヰン、ベルツ

○明治十八年二月二十六日甲第四百十三號

自今摺附木製造ニ黃燐ヲ用ユルヲ禁ス犯シタル者ハ五拾錢以上一圓五拾錢以下ノ科料ニ處

スヘシ(明治二十二年六月縣令第六十三號ヲ以更正)
右布達候事

○明治十八年八月二十一日甲第百三十號
客年八月本縣甲第百一號布達衛生委員設置及撰舉規則自今廢止ス
從前衛生委員擔當ノ事務ハ自今戶長ニ於テ取扱フヘシ
右布達候事

第六節

一 出納

●國庫費出納

○明治十九年四月三十日郡丁第四號 周吉穩地郡役所ヲ除キ 郡役所
海士知夫
今般歳入歳出出納規則及ヒ取扱順序發令相成候ニ付十九年度以降歳入第二部科目中徵收方
監督セシメ候トハ左之手續ニ寄リ取扱フヘシ
右相達候事

第一條 會計主務官ヨリ納期以前ニ於テ納額告知書ヲ製シ郡衙へ送付スヘキニ付郡衙ニ於
テハ別紙雛形ニ倣ヒ徵收監查簿ヲ製シ之レニ登記スヘシ

第二條 上納副書金庫ヨリ送付セシトハ徵收監查簿へ納濟ノ記入ヲナシタル上三日以内ニ
本廳へ送納スヘシ

第三條 會計年度内ニ於テ徵收ヲ完了セサルカ又ハ翌年度十一月三十日迄ニ徵收ヲ完了セ
サル者アルトハ徵收監查簿廉限リ徵收未濟之事由詳記シ翌月三日限開申スヘシ

第四條 告知書納人へ交付後事故アリ其金額ノ幾分又ハ全額ヲ消滅セシトハ告知書ヲ取戻
シ徵收監查簿ニ其事由ヲ記入シ其時々送納スヘシ

第五條 告知書ヲ交付セシ納人ノ内逃亡失踪又ハ死亡絶家等有之節ハ其時々届出ヘシ

諸交附金請求之節請取證書相添或ハ添サルアリテ區々ニ候處自今下金請求之義ハ上申書ニ
明細仕譯書相添^{郡役所定額常費取豫算決定高ノ内毎三ヶ月一際岐國}進達シ追テ金崩落手
ノ節長官宛領收證書直チニ第六課へ差出候儀ト可相心得此旨相達候事
但本文ニ抵觸スル從前ノ達及ヒ指令等ハ自今相廢候事

○明治二十年三月四日訓令第五十一號 郡役所
十九年度以降本縣經費ノ支弁ニ屬スルモノハ該年度三月滿日迄ニ無遺漏請求スヘシ尤同日
迄ニ請求シ難キモノアルトキハ其金額及事由等詳細仕譯書ヲ以テ翌年度四月三日限上申ス
ヘシ

○明治二十一年十一月七日訓令第五十號 島廳 郡役所
本廳於テ發行シタル支拂切符一旦下付ノ後引換期限ヲ經過シ更ニ書換交付ノ場合ニ於テハ
其切符到達ノ旨會計主務ヲシテ本廳會計主務官へ報告セシムヘシ
但島廳郡役所於テハ適宜正當受領人ノ證左ヲ徴スヘシ

●國庫費支辨給與

○明治十五年六月二十三日郡乙第四十四號 郡役所
勳章傳達ノ爲メ郡役所へ呼出タルモノ、旅費金官費可下渡候條明治九年^六太政官第六十四
號達(旅費定則)及ヒ爾後改正增加達ニ照準經費ノ内ヲ以テ繰替相渡置明細仕譯書相添速ニ
請求スヘシ此旨相達候事

○明治十九年十一月五日訓令第六十七號 郡役所 戶長役場
郡役所ニ於テ華族及有位帶勳者ヲ公務ニテ旅行セシムルハ本年^九訓令第三十九號郡書記
以下旅費額表中一等旅費一般ノ士民全額ノ節ハ二等旅費ヲ該訓令ノ方法ニヨリ支給スヘシ
戶長役場ニ於テ全上ノ節(地方^稅ヨリ支給ス)ハ前項ノ區別ニ從ヒ本年^九訓令第四十號戶長
以下旅費規則ノ一等又ハ二等旅費ヲ該訓令ノ方法ニヨリ支給スヘシ
○明治十八年八月二日郡乙第六十一號 郡役所
各部長本縣管内並旅行及巡回旅費左表ノ通相定メ本年八月一日ヨリ施行ス
但本年^二郡乙第十六號達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス
右相達候事

旅行區別	旅費等級	
	三等	奏任
並旅行	二圓	四等
巡回	一圓五十錢	判任
		一圓三十錢
		一圓

○明治十九年五月十三日郡乙第四十七號 郡役所
明治十八年^八郡乙第六十一號達郡長本縣管内並旅行巡回旅費日當ハ其額十分ノ二ヲ管外並
旅行日當ハ其額十分ノ一ヲ減シ本年五月一日ヨリ之レヲ給ス

○明治二十年七月六日訓令第七十九號 郡役所
 客年^{七月}郡乙第六十一號ヲ以テ相達タル内國旅費規則第十九條ヲ削除セヨレシヨ依リ來ルハ日ヨリ之ヲ施行ス

○明治二十年九月二十八日訓令第二百十四號 郡役所 戶長役場
 郡役所及ヒ戶長役場吏員國庫費支辨ニ屬スル用務ヲ以テ旅行セシムルトキ旅費ハ本年六月十四日以降總テ官費支給規則ニ基キ郡書記戶長ハ官等其他ハ備員相當ノ額ヲ給與ス

但明治十九年^{五月}郡乙第四十號達ノ本條ハ消滅ス

○明治二十一年六月十五日訓令第九十四號 隱岐島廳 郡役所 戶長役場
 明治二十年^{十二月}大藏省令第十七號徵兵旅費定則第三條第四條ノ場合ニ於テ渡航實ノ實費拂ヲ要スルトキハ下付スヘクニ付仕拂證書ヲ添請求セシムヘシ

但瀛車實費船賃ノ如キハ其下等賃ヲ以テ支給スヘキ成規ニ付和船等ニテ豫メ一定ノ船賃ナキ場合ト雖モ不相當ノ船賃請求セサル様戶長ニ於テ懇篤ニ差示シ置クヘシ

○明治二十一年五月二十八日訓令第八十二號 郡役所
 本縣經費ノ支辨ニ屬スル内國旅費之内管内派出日當ニ限リ左ノ通節減シ來六月一日ヨリ之ヲ施行ス

旅費等級	管内	並日當	管内	巡回日當
------	----	-----	----	------

三	等	金壹圓貳拾錢	金壹圓五拾六錢
四	等	金八拾錢	壹圓〇四錢
五	等	金五拾六錢	金七拾貳錢八厘
六	等	金四拾三錢	金五拾五錢九厘

●陸海軍ニ關スル費用取扱

○明治二十二年六月八日訓令第百十四號 郡役所
 徵兵諸費請求及下付方別冊徵兵諸費取扱順序ニ依リ處理スヘシ
 但明治十九年^{十月}訓令第五十一號ハ廢止ス

(別冊)

徵兵諸費取扱順序

第一章 請求

第一條 徵兵検査ヲ受クヘキ檢丁ノ總員及ヒ入營スヘキ新兵ノ人員定リタルモハ徵兵署若クハ検査所ニ往復及ヒ入營ノ旅費額ヲ概定シ速ニ本廳ニ請求セシムヘシ

第二條 徵兵署若クハ検査所ニ於テ要シタル廳費及ヒ小使日給人足賃等ハ検査終了后取絡メ速ニ本廳ニ請求スヘシ

但小使ノ日給ハ一日金拾錢以上金貳拾錢マテヲ極度トシ相當ノ給額ヲ定ムヘシ

第二類 第六節 出納

第二章 支給

第三條 凡徵兵費ニシテ本廳ヨリ下付シタル金員ハ各正當受取人エ下付シ其受領證書ヲ徵シ速ニ本廳ニ進達スヘシ

第四條 檢定旅費ハ檢査結了後一週間以内入營兵ノ旅費ハ入營後二週間以内ニ精算セシメ其精算書ヲ徵シ進達スヘシ

但精算上殘余ヲ生シタルハ會計主務官ノ告知ヲ得テ返納セシムヘシ

第三章 附則

第五條 徵兵費整理科目ハ別冊科目表ニ依ルヘシ

第六條 本順序ニ要スル書式ハ別紙第一號ヨリ第三號迄ニ依ルヘシ

徵兵費科目表		
項	目	節
徵兵費		
	備入料	小使、人足
	器具器械費	器 具 <small>卓子、椅子、腰掛、箱、火鉢、印、筆、身、尺、度、履、臺、桶、土、瓶、茶、碗、燗、器、等</small>

雜器械	
圖書及印刷費	印刷費
筆紙墨文具	用 紙 <small>美濃紙、半紙、半切紙、封袋、其他、諸用紙類</small>
	筆墨印肉類
	硯小道具類 <small>硯箱、硯水入、肉池、小刀、雜、刷、入、算、盤、等</small>
文具料	
消耗品	
薪炭油類	
雜用品	茶、燈心、生麩、蠟燭、付木等
通信運搬費	郵便電信料
	運搬費 <small>保險料共 物品運搬用外箱、細引、繩、袋、等モ包含ス (但シテ、足履上運搬セシムルハ此限ニ非ス)</small>
雜費	家屋其他借料 <small>借家料、藏敷料、器具器械借料、等</small>

	賄費	船荷車 荷馬等
	舟車馬類備費	繩、糸、筵、箒、札、草履、雜巾等
	雜品費	
	內國旅費	
	檢丁旅費	<small>檢丁及呼出ニ係ル檢丁ノ父兄、若クハ檢丁及呼出ニ係ル父兄撥拵不具ニテ保護人ヲ要スル旅費等</small>
	入營旅費	

第一號

徵兵旅費概算請求書

一金何程

檢丁旅費(又ハ入營旅費)

內

金何程

旅行費

但檢丁(又ハ入營兵)片道三里以上何百何拾人分此延里程何千何百里一里ニ付金何程

金何程

宿泊料

但檢丁(又ハ、、、、)片道三里未満何百人分此延泊數何百何拾泊一泊金何程

金何程

何々

但何々、、、、

右ハ本年徵兵檢丁旅費(又ハ本年入營旅費)概算書面之通り御渡シ有之度候也

檢丁(又ハ入營兵)何某外何百名代理

年 月 日

何 郡 長 何 某

印

知 事 宛

第二號

記

一金何程

何郡何村大字何々

內

金何程

檢丁

何

某

但何月何日居村出發何月何日何所檢査所着何月何日檢査所出發何月何日歸村片道
里程何里分壹里ニ付金何程

金何程

但何月何日ヨリ何月何日迄御用滞在何日分一日金何程

何郡何村大字何々

一金

檢丁

何

某

但何月何日居村出發何月何日何所檢査所着何月何日檢査所出發何月何日歸村此片道

里程何里一里ニ付金何程

一金何程

何郡何村大字何々

檢丁 何 某

但何月何日何所檢査所出頭翌何日出發歸村片道里程三里未滿ニ付宿泊料一日分

何郡何村大字何々

檢丁 何 某

一金

但、、、、

合金何程

精算高

一金

何月何日概算受取高

外金何程

精算殘返納スヘキ分

(精算殘金無キ時ハ)

合金何程

精算高

何月何日概算受取之分精算

右精算相違無之候也

年 月 日

檢丁何某外何名代理

何 郡 長 何 某

印

會計主務

官 姓 名 宛

第三號

何年度徴兵費請求書

一金何程

何所檢査所

内譯

金何程

備人料

内

何郡何村大字何々

金何程

何 某

但小使日給何月何日ヨリ何月何日迄何日分一日金何程

金何程

何郡何村大字何々

内

何 某

但諸器械運搬人足賃何人分一人ニ付金何程

金何程

器具器械費

内

何郡何村大字何々

金何程

但椅子何脚修繕代壹脚ニ付金何程

何 某

金何程

但土瓶何個買上代壹個ニ付金何程

何 某

金

内

何 某

金

但、、、、、

何郡何村大字何々

何 某

右ハ本年徴兵検査諸費前書之通り御渡被下度候也

年 月 日

何郡長 何 某

印

知事 宛

○明治二十二年十二月七日訓令第二百十六號 島廳 郡役所 戸長役場
徴兵検査所往復及新兵入營者ニシテ出雲國石見國居住者ハ郡長隠岐國居住者ハ町村戸長ニ於テ其旅費ヲ代理受取ヘシ

但本人ノ受取證書ハ郡役所戸長役場ニ保存スヘシ

○明治廿年十一月十八日訓令第二百二十六號 郡役所

海軍下士卒家族扶助金渡方ノ儀以來送金手形若クハ仕拂切符等ヲ以其時々第二部ヨリ送付候條渡方取計フヘシ

沿革要領 十七年七月郡乙第八十五號郡長諸給與其他國庫金下渡金受拂手續制定(全年九月郡乙第百三十四號十八年七月郡乙第四十七號全年十二月郡乙第九十一號更正) ○全年九月郡乙第百十二號徴兵事務ノ爲メ郡書記代理出張ノ節旅費ノ件達 ○十八年七月郡乙第四十七號郡長俸給本廳直轄ノ件達 ○十九年四月郡乙第三十六號郡長俸給其他交付手續達 ○全年五月郡乙第四十九號租税不納ヨリ生スル財産官沒取扱ハ全年五月郡乙第四十八號達ニヨラシム ○全年十月訓令第五十一號徴兵検査所鋪設及徴兵ニ關スル諸費支拂方達(二十一年四月訓令第六十一號更正) ○二十一年四月訓令第七十號郡長賄費支給方廢止

二 徵收 納付

● 歳入金取扱

○明治二十二年三月二十八日訓令第六十號 郡役所
歳入金取扱順序明治二十二年度以降左ノ通相定ム
但書式ハ別ニ送付ス

歳入金取扱順序

- 第一條 此取扱順序ハ歳入歳出々納規則及歳入取扱順序ニ基キ經常歳入第二款以下及ヒ臨時歳入ニ適用スルモノトス
- 第二條 現金收入納付書ハ會計主任郡書記ヲシテ發付スルモノトス
- 第三條 現金收入會計年度毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテ區別ハ金庫受領年月日現金ハ納付書返納ヲ以テ區分スヘシ
- 第四條 現金ヲ收納シタルトキハ第一號書式ノ納額臺帳ニ記入シ別ニ其領收證書(第五條トモ)ヲ製シ之レヲ納入ヘ交付スヘシ
- 第五條 訴訟用印紙料及ヒ登記印紙料收入ニ限リ廿一年九月第百四十二號國庫金出納所事務順序第二章第十九條ニ基キ納入ヨリ直ニ金庫ヘ納付セシメ而シテ甲號預リ證書ニ上納證書添付郡役所ヘ納付セシムヘシ
- 第六條 郡役所ニ於テハ納入ヨリ差出タル甲號預リ證書ヲ金庫ノ案内書即チ乙號ニ照合ノ

上第一號書式ノ臺帳ニ記スヘシ

第七條 出納規則第廿七條歳入取扱順序第十四條ニ基キ第二號科目表ニ依リ納付書ヲ製シ
又ハ現金ヲ添テ金庫ニ納付スヘシ

但本文納付書金員ノ右方ニ納金ニ該當スル款名及同金員ノ下ニ其廳主管ノ印ヲ押捺ス
ヘシ

第八條 金庫ヨリ納付正書ノ送付ヲ受ケタルトキハ金庫受領年月日ヲ臺帳ニ記入シ而シテ

一旬毎第一回毎月一日ヨリ十日迄ノ分ハ十五日第二回十一日ヨリ廿日迄ノ分ハ二十日
三回廿一日ヨリ其月末日迄ノ分ハ翌月三日迄尤モ廿年二月訓令第二十六號但書
ノ如キ別ニ送納期限ヲ第三號書式ノ仕譯書ヲ製シ第四號書式ノ仕譯書又ハ本廳ニ送納
スヘシ

但本人上納證書ハ鄭重ニ其廳ニ保管スヘシ

第九條 納額告知書及ヒ地券下付書換手数料取扱手續ハ従前ノ通りト雖モ送納方ハ前條ノ
例ニ據ルヘシ

第十條 納付書ニ誤記アルヲ發見ヘルトキハ即時金庫へ通牒金員増減ハ此レカ訂正ヲ
請求スヘシ

但納付正書送納後ニ於テ誤記ヲ發見シタルトキハ本條ノ手續ヲ了シ第五號書式ノ報告
ヲ製シ本廳へ送付スヘシ

第十一條 既納金過誤納ニ係リ下戻本納以前ノ過誤納ハ國庫金出納所事ヲ要スルキハ第六
務順序第四章第六十一條ニ據ルノ手續ヲ了シ

號書式ノ歳入下戻計算書ヲ製シ其下戻ヲ本廳へ請求スヘシ

但下戻ヲ要スルハ第八條ノ手續ヲ了シタル后請求スヘシ其手續執行以前至急下戻ヲ
要スル場合ニ於テハ其請求ニ先ツテ臨時第八條ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 郡役所ハ本廳ヨリ過誤納金拂戻證ヲ受クルハ之レヲ受取人ニ交付シ領收證書
ヲ徵シ本廳へ送付スヘシ

但出納閉鎖ノ期ヲ過現金受取未済ノモノアルハ廿一年二月訓令第十八號ニ依リ處理
スヘシ

第十三條 會計年度内事故アリ完了セサルモノハ二十年十月訓令第二百二十五號ニ依リ

○明治二十二年三月二十八日訓令第六十一號 郡役所

經常歳入第二款以下ニ係ル現金收入ノ義ハ明治二十二年歳ヨリ歳入歳出々納規則及入歳取
扱順序ニ據リ取扱フヘシ

○明治二十年十月二十八日訓令第二百二十五號 郡役所 戶長役場

第二部歳入ノ内拂下ニ對スル落札受書及現金取扱手續左ノ通相定ム

一總テ官有地及物品等拂下ニ對スル落札請書ハ即日之ヲ縣廳へ進達スヘシ

一官有地國稅地方稅等連
帶ノ者ニ限ル貸下料及拂下代其他現金送納期日指定ヲ收入シタルトキハ七日以内ニ之
ヲ縣廳へ送納スヘシ(明治二十一年二月訓令第二十九號ヲ以テ更正)

一會計年度内事故アリ前各項ノ手續完了セサルカ又ハ翌年度十月三十一日迄ニ完了セサル

第二類 第六節 徵收納付

トキハ郡役所ニ於テ詳細仕譯書ヲ製シ翌月一月十三日限り開申スヘシ
 一地券下付書替手數料事故アリ前項期日迄ニ完了セサル場合ニ於テハ詳細仕譯書ヲ製シ翌
 月四月十三日限り郡役所へ送付シ郡役所ハ十日限り取絡縣廳へ進達スヘシ
 一會計年度内悉皆完結ノ場合ニ於テハ郡役所ハ其旨翌年度四月三日限り證明スヘシ
 ○明治二十年十月二十六日訓令第二百二十號 郡役所 戶長役場
 第二部歳入納額告知書及納付正書事故アリ亡失等ノ場合ニ於テハ左ノ通り取扱フヘシ
 一水火盜難等ニ罹リ納額告知書金庫へ納付已前亡失シタルハ其事由ヲ具シテ開申スヘシ
 一金庫へ納付後上納副書及納付正書前項同様亡失シタルトキハ便宜ニ依リ郡役所ハ金庫へ
 納濟ノ證明書^{會計主}ヲ請求シ成規ノ帳簿へ記入ノ上之ニ開申書添付縣廳へ進達スヘシ
 但戶長ニ於テ亡失シタルトキハ詳細事實ヲ具シ郡長へ開申シ郡長ハ本文ノ通取扱フヘ
 シ(明治二十一年二月訓令第二十九號ヲ以テ更正)
 ●貸下料取扱
 ○明治二十年六月三日訓令第四百四十四號 郡役所 戶長役場
 明治十九年八月訓令第九號社寺境内貸下料徵收下渡濟仕譯書式ヲ左ノ通更正シ其届出期限ハ
 一周年度取納年々五月三十一日ト相改ム
 官有社寺境内貸下料徵收下渡 (明治 年度)
 前々許可年期中 本 年 度 許 可 合 計 徵收者町村 氏 名

反	別料	金反	別料	金	反	別料	金	社寺名
				何月ヨリ何月 マテ何ヶ月			下渡社寺町 村	
合計金								

右之通候也

年 月 日 縣 知 事 宛 何 村 町 戶 長 氏 名 印

(届出期限ニ於テ若シ未收入ノモノアルトキハ別表ニ調製其事故副
 申スヘシ)

●鑛山借區稅

○明治十九年二月八日郡乙第十一號 郡役所
 鑛山稅表皆濟帳上納明細簿之儀十九年度以后編製區分及進達期限共左記ノ通相定候條此旨
 相達候事

但本文ニ抵觸スル從前ノ達ハ本年三月限り廢止ス
 鑛山稅表其他編製區分及進達期限

鑛山稅表 第一號樣式
 全追納稅表 第二號樣式

第二類 第六節 徵收納付

右兩表 前半年 其年九月ヨリ 收入ノ分 十月十日限進達
 后半年 其年十月ヨリ 收入ノ分 四月十日限進達

全皆濟帳 右五月十日限進達 第三號樣式
 全上納明細簿 右税金送納ノ都度進達 第四號樣式

第一號(用紙美濃紙)
 自明治何年何月何月 鑛山稅表
 至全何年何月何月

一金若干

內

金若干 有鑛質
 金若干 無鑛質

此譯

鑛質一坪	數	全年及月割區分	稅	有鑛質五百坪ニ付金一圓 無鑛質五百坪ニ付金五十錢	借	區	人	名
有鑛質		何年一ヶ年分						
全		何年何月ヨリ何月分						

右之通候也

年 月 日

縣 令 宛

郡 長 名 印

第二號

自明治何年何月何月 鑛山稅追納稅表
 至全何年何月何月

一金若干 元何年度分

內

金若干 有鑛質
 金若干 無鑛質

此譯

鑛質一坪	數	全年及月割區分	稅	金	借	區	人	名
------	---	---------	---	---	---	---	---	---

事 故 一 何々ノ事故ニテ未納之處本年ニ至上納

右者何年度分鑛山稅追納書面ノ通候也

何 月 日

縣 令 宛

郡 長 名 印

第三號

明治何年度鑛山稅皆濟帳

高金若干

一金若干

內 金若干

外 金若干

金若干

內 金若干

是ハ何々(事故詳)

是ハ何々(細記載)ニ付收入未濟

金若干

是ハ何々ニ付損失ノ分

右ハ明治何年度鑛山稅皆濟書面之通候也

年 月 日

事故有之勘定組除ノ分

何年何月上納スヘキ分

何年何月下納スヘキ分

郡 長 名 印

第四號

縣 令 宛

明治年度鑛山稅上納明細簿

一金若干

內 金若干

金若干

此譯

有鑛質

無鑛質

借區許可年月

國郡村字 鑛 名 坪

敷 稅

金 全年及月割區分

借 區 人 名

何年一ヶ年分

何年何月ヨリ何月分

右之通有之候也

年 月 日

縣 令 宛

郡 長 名 印

○明治二十二年十月十日訓令第九十三號 郡役所

今般法律第二十三號ヲ以テ國稅徵收法第八條改正相成候ニ就テハ本年九月訓令第一百八十號鑛

山借區稅徵收方取扱手續左之通改正ス

一鑛山借區稅徵稅令書ノ送付ヲ受ケタルトキハ帳簿ニ記入シ之ヲ納稅人ニ下付スヘシ

第二類 第六節 徵收納付

一會計主務官ノ取扱フヘキ收入官吏ノ職務ニ關スル事項ハ便宜會計主任郡書記ヲシテ取扱
ハシムヘシ
一前項取扱方ハ國稅徵收法施行細則中第五條乃至第九條第十三條及本年^月訓令第八十五號
等ニ依ルヘシ

但本文細則第十三條ノ每月收入報告書ヘハ別金額等詳記シタル仕譯書ヲ添付スヘシ

○明治廿二年九月十三日訓令第百八十號 郡役所

明治廿二年度以降鑛山借區稅徵收ノ令達ヲ得タル^其徵收方其他左ノ通取扱フヘシ

一鑛山借區稅ハ國稅徵收法第八條ニ基キ同法施行細則第一條ニ依リ徵稅令書ヲ發スヘシ

一會計主務官ノ取扱フヘキ收入官吏ノ職務ニ關スル事項ハ便宜會計主任郡書記ヲシテ取扱
ハシムヘシ

一前項取扱方ハ國稅徵收法施行細則中第二條第五條乃至第九條第十三條及本年^月訓令第八
十五號全年^五訓令第九十號全年^六訓令第百十六號全年^七訓令^{第百四十二號等ニ依ルヘシ}
但國稅徵收法施行細則中第十三條每月收入報告書ヘハ別金額等詳記シタル仕譯書ヲ添
付スヘシ

一既納金ノ過誤納ヲ發見シタル^其別紙書式ニ倣ヒ下戻計算書ヲ製シ其下戻ヲ請求スヘシ

(別紙)
第 號 (用紙ハ適宜)

經常歲入下戻計算書

何年度 (項)

一金何程 (目)

但何年何月何日第何號每月收入額報告書ノ内何國何郡何村何某納何々ノ事由ニヨリ過
納ノ分

何年度 (項)

一金何程 (目)

但、、、、

合計金何程

右御拂戻有之度候也

年月日

知事宛

郡長 氏 名 印

● 上納

○明治二十一年六月一日訓令第八十六號 隱岐島廳 郡役所

當廳へ上納金^(別段ノ成規ニヨル)ハ自今左ノ各項ニヨリ送納スヘシ

一送納金ハ送金手形ヲ以テ送付スルヲ例トス

但時宜ニヨリ明治十三年^月郡乙第二千號達ニヨリ現金ヲ送納スルコトヲ得

第二類 第六節 徵收納付

一送納金ハ第一號乃至第三號書式ノ書面及其付屬書ヲ添付當廳ニ送付スヘシ尤前項但書ノ場合ニ於テハ書類ハ別ニ郵送スヘキモノトス(明治廿二年五月訓令第百三號ヲ以更正)
第一號式
第何號

證

一金

但何年度何々別紙第何號仕譯書之通
右上納候也

明治 年 月 日

會計主務 官姓名印

會計主務

書記官姓名宛

(本書ハ地方税金ハ大科目毎ニ壹通ツ、其他各種金ト雖モ可成の種類毎ニ調製スヘシ)

第二號式

第何號

何々金上納仕譯書

一金

内

金

金

何年度何々
何々

右之通候也

明治 年 月 日

廳 衙 名 印

(本書ハ可成詳細ニ内譯ヲ要ス仮令ハ地方税ノ如キ各年度各郡及ヒ小科目ヲ區別スルカ如シ)

第三號式

第何號

送納差立目録

一金 (本行金額ハ全日ニ於テ送納スル
金高ヲ總括シタルモノヲ掲グ)

但送金手形何通ヲ以テ(現送シタルモノハ何月何日現金通
運會社ニ托シタル目ヲ付記スヘシ)

内

金

何年度何々

但上納證書第何號ノ分(上納証書一紙毎ニ金
額區別詳記スヘシ)

金

何々

但何々

第二類 第六節 徵收納何

右之通ニ候也

明治 年 月 日

廳 衙 名 印

(明治二十二年五月訓令第三百三號ヲ以更正)

○明治二十一年八月一日訓令第二百二十號 郡役所

本年七月縣令第七十五號ヲ以テ官林内諸產物入札規則中更正追加候ニ就テハ同規則第十條但書ニ據リ徵收シタル現金ハ其時々落札人受書添付送納スヘシ

●現金遞送

○明治十三年二月廿三日郡乙第二十號 郡役所

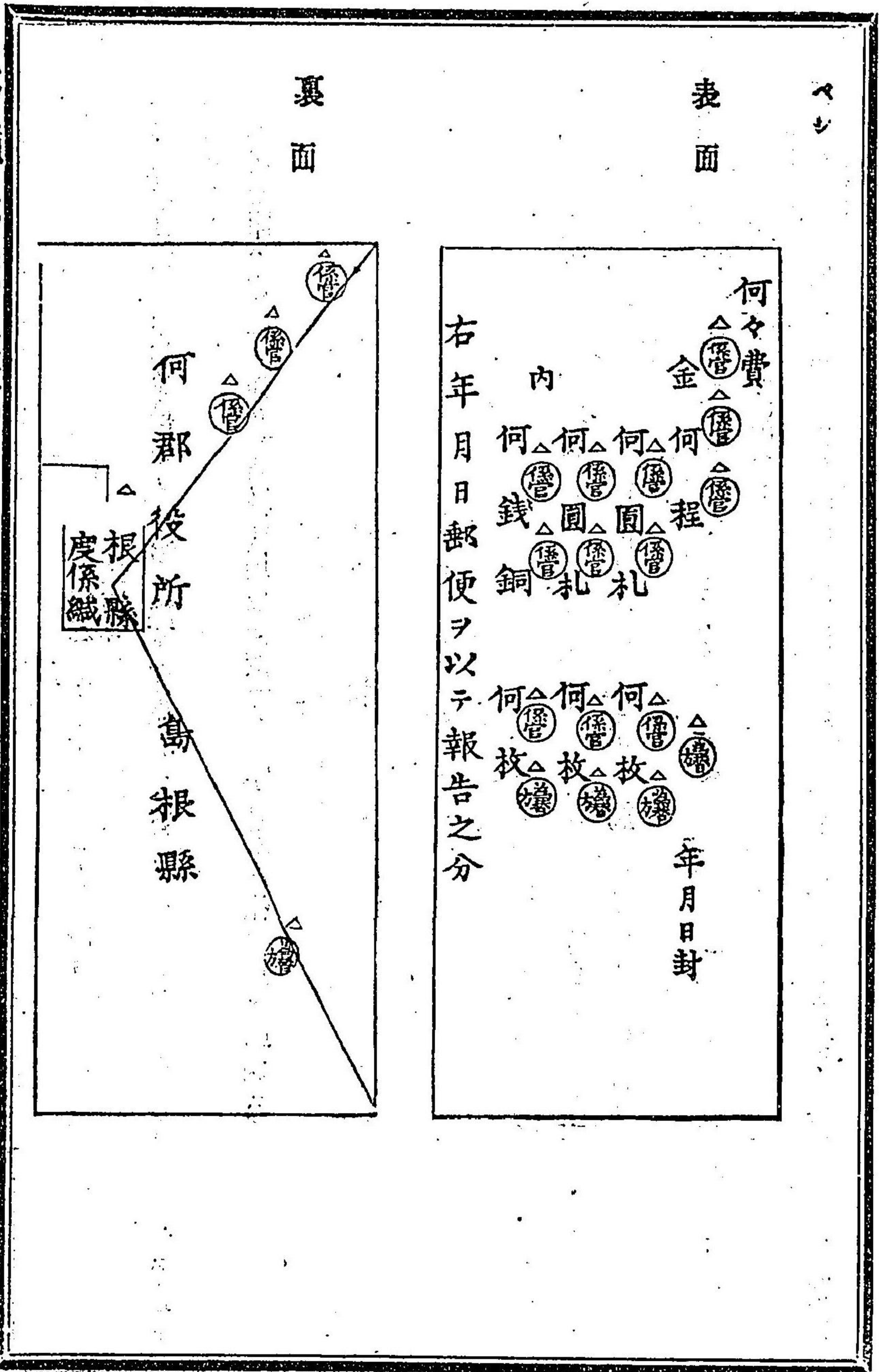
諸交附金内國通運會社ニ托シ現金遞送方取扱規則別紙ノ通相定メ候條此旨相心得郡役所ニ於テモ右ニ準據取計且金圓通運會社ニ托スルトキハ明治九年七月驛遞頭ノ認可セシ諸物皆取扱規則之通約定可致此旨相違候事

(別紙)

現金遞送取扱規則

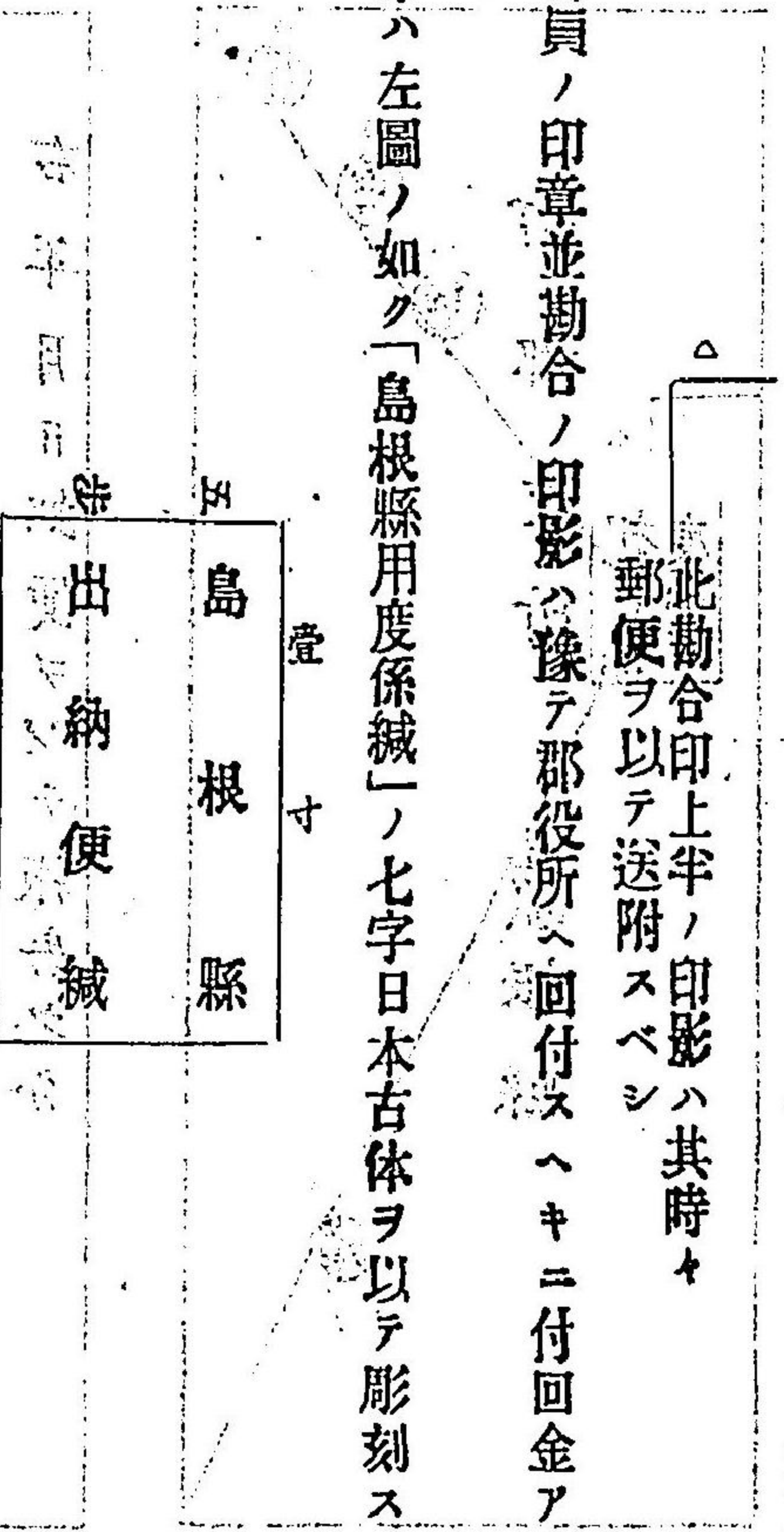
第一條 現金ヲ遞送セントスルトキハ本廳爲替方ニ於テ眞贋鑑定ノ上係官員三名及ヒ爲替方立會ヲ以テスヘシ

第二條 回金ハ堅牢ニ紙包封緘ヲナシ其包様並表裏面金員記載方且印章ノ位置等左ノ如シ尤勘合印ノ上ニ半影ハ出納課ヨリ現金通運會社ニ托シタル報告ト具ニ郵便ヲ以テ送附ス



第一類 第六節 徵收納付

第三條 係官員ノ印章並勘合ノ印影ハ其時々
照合スヘシ
但勘合印ハ左圖ノ如ク「島根縣用度係絨」ノ七字日本古体ヲ以テ彫刻ス



(明治十五年郡乙第卅七號ヲ以テ更正)

第四條 郡役所ハ金圓到達スル所ハ係官三名並金錢預リ人立會封面ノ印形等豫テ備アル
印鑑及ヒ第二條ニ掲載セル勘合印ノ印影等ヲ以テ篤ト對照檢査シ異條ナキヲ見認メテ之
ヲ請取開封スヘキモノトス
第五條 萬一右ノ金圓ニ價金又ハ不足金其他不都合アルトキハ其願末ヲ詳細具狀且其包紙
悉皆相添速ニ處分ヲ伺出ヘシ

沿事要領 明治十二年一月乙第八號鑛山借區稅徵收期日及明細表添出期日ヲ定ム○全年六月乙第百三十三號稅外

收入諸返納金送納手續達○全年九月丁第四十四號上納金爲替振込手續達(十七年六月郡丁第四號更正)○十三年七月郡
乙第六十四號稅外收入金納方順序達○十四年九月丁第二十五號雜收入及諸返納金納付順序更定(十五年二月丁第六號
更正)○全年十二月丁第三十四號道路拜借料提防使用料本購直納ノ件達○十五年十月內第十四號雜收入金納付順序出
雲石見兩國ハ布達(十六年四月丙第二號十七年九月郡丁第七號更正)○全年十一月丁第二十七號鑛山稅取扱ハ常年丁第
二十號國稅領收順序ニ準シ取本縣へ扱ハ明細簿ヲ出サシム○十七年五月丁第四號會上達廢止○十八年五月丁第六號商
標登錄手数料收納手續出雲石見兩國へ達○全年六月丁第九號專賣免許料收納手續同上へ達○二十年二月訓令第二十九
號海員雇入雇止手数料收入手續達○二十一年一月訓令第百五十四號登記印紙料ハ第二部收入ニ編入上納セシム○二
十二年十一月訓令第二百十號二十年訓令第二十九號廢止

三 決算

● 國庫金收支証書

○明治十八年四月十一日郡乙第二十五號 郡役所
本縣國庫金收支證書類調理規則別冊之通更ニ相定メ本年度以降施行候條其郡役所ニ於テ取扱候國庫金收支證書右ニ照準可取扱此旨相達候事
但細例之儀ハ會計主務官ヨリ通達スヘシ

國庫金收支證書類調理規則

凡ソ國庫ニ關スル收支金ハ精算上證書ヲ以證明スヘキニ付左ノ條項ニ遵ヒ調理スルモノトス

第一條

一 證書類ハ都テ支出ハ正當受取人ノ領收證書收入ハ正當納付人ノ納金證書ニ限ルモノトス
但事實證書ヲ得雖キ者及ヒ雜收入金ノ人民ヨリ直チニ國庫金取扱所ヘ預ケ入ノ分ハ此
限リニ非ラス

第二條

一 支出證書ハ細科目ニ收入證書ハ小科目毎ニ分別シ調成セシムル者トス其物件事由及ヒ金額ノ算出ニ係ル者等ハ勉メテ詳悉記載セシムヘシ

第三條

第一類 第六節 決算

一 證書宛名本廳直取扱ニ係ル者及郡長諸給與ハ本縣會計主務官他ノ局部ヲ經由シ支拂フ者ハ其局部ヲ首長ヲ宛テシタル後其宛名ニシテハ

一 第四條 收入支出トモ其納付人受取人若シ代理人ナルハ其代理ノ事故ヲ證書ニ具記セシムヘシ尤事實不得止場合ニ於テ正當ノ證書ヲ徵收シ能ハサル者ハ其事由ヲ詳記セル支出ハ支拂者ノ支拂證書收入ハ徵收者ノ收入證書ヲ以代用スルヲ得

一 第五條 地方派出中ノ諸費ハ證書ニハ每細科目ニ内譯明細書添附スル者トス

一 第六條 一約定購買ニ係ル支出ノ領收證書ニハ其約定書又タ入札拂ニ係ル收入ノ納金證書ニハ其落札人ノ請書ヲ添付スルモノトス

一 第七條 營繕土木ノ工事請負ニ係ル支出ノ證書ハ其仕樣精算帳ヲ添付スル者トス

一 第八條 囚徒在獄諸費則チ集治權ニ入ルヘシ在縣獄囚徒費ハ該囚徒一周年度ノ延人員毎月ニ區分シタル調書ヲ調理スル者ニ付但押送費ハ此限外トス

第九條

一 支出證書ニ限リ其所管ノ主務者ニ於テ科目ヲ朱記スルモノトス

但本廳外局部於テ支拂フモノハ其局部ニ於テ本文ニ因リ取扱フヘシ

一 鑑札類調成ニ用スル原料品代價ノ證書ハ其製成ノ名稱ニ據リ事項朱記スル

一 道路橋梁等實測ニ屬スル費用ノ如キハ國費地方費ノ區別アル者ハ其國費ヲ以テ支辨スル

第十條 證書料紙ハ半紙ヲ用テシテモ可ス

但別段例格アルモノハ以テ限リ非ラス

第十一條 一支出證書類ハ該年度豫算ノ每細科目ニ區分編シ付スル表紙ヲ以テシテ之ニ金員ノ合計其所屬ノ小科目中科目及ヒ證書ノ枚數ヲ掲記スルモノトス

第十二條 一收入證書類ハ該年度豫算ノ每小科目ニ區分編シ付スル表紙ヲ以テシ之レニ第一號書式ヲ如ク記載シ若シ事故アリ未納ニ係ル者アルハ第二號書式ニ據リ之カ辨明書ヲ添付スルモノトス

第十三條 一六八證書ハシテ表シ甲乙科目ノ種類ヲ混併記載セシモノアルカ如キハ其乙科目ニ屬スル

第二類 第六節 決算

七百〇三

分ハ之カ寫ヲ編入スルモノトス

第十四條

一 第十一條第十二條ニ據リ區分編シタル証書ニハ之レニ該年度大科目毎ニ通シタル番號ヲ記載シ最尾ニハ最尾ト記載スル者トス

但第十三條乙科目ニ屬スル寫書ニハ其原証書ノ番號ヲ付スルモノトス

一 假拂精算証書ニハ其假拂金ノ領收証書ヲ添付シ該精算証書付屬ノ番號ヲ付記スルモノトス

一 出張先諸費出張員ヨリ差出タル請求金領收証書ニハ正當受取人証書付屬番號ヲ付記スルモノトス

一 雜收入金大藏省ヘ送付以前過誤納ヲ發見シ下戻シタル証書金ノ領收証書ニハ該下戻證書金ノ番號並ニ科目金員ヲ朱記シ且本廳直取扱ノ分収入ノ分ハ最前ノ上納證書ヲ添付シ領收証書ノ付屬番號ヲ付記スルモノトス大藏省ヘ送付後發見シ下戻シタル証書金ノ領收証書亦全シ

第十五條

一 證書類誤謬訂正ノ廉ヘハ必ズ證印押捺ヒシメ其金員ニ係ルモノハ朱字ヲ以テ更正ヒシムルモノトス

第十六條

一 雜種金[△]國庫金地方稅備荒儲蓄[△]除キ其他ヲ總稱ス 收支ノ證書類モ都テ本則ニ準據シ調理スルモノトス

第一號書式

(料紙ハ常用野紙ヲ用ユヘシ)

△大科目

△何々部

一金

△小科目

△何々

外金[△](該年度内ニ徵收スヘキ規約ニシテ未納ニ係ルモノアルハノ列) 未收入高

但別冊辨明ノ通

内譯

納金證書租稅局ヘ送付ノ分
納金證書何枚

△第二號書式

(料紙ハ常野紙ヲ用ユヘシ)

明治何年度雜收入未納金額事由辨明書

第二類 第六節 決算

	廳名
--	----

△大科目

△何々部

一金

内譯

金

△小科目

△何々未收入高

△品目事由

何々拂下代

但何年何月中何國郡村於テ拂代金若干何年ヨリ何ケ年賦上納定ニシテ本年度上納スヘキ分(若干ノ内本文ノ金額)何々ノ事故ニ由リ年度内納入未済ニ付云々(處分方詳細記載スヘシ)

金

△品目事由

何々拂下代

但本年何月中拂下代ノ通徴収済ノ所何々事故ニヨリ年度内本納ノ順序ニ至ラサルヲ以何年度へ納入取計候分

大科目

△何々部

一金

△小科目

△何々未收入高

(内譯及其事由ノ書式前ニ倣ヘ)

右明治何年度所屬雜收入未納金額事由相違無之候也

年月日

會計主務官名印

○明治十七年五月五日郡乙第五十四號 郡役所

金錢收入ニ關スル納證書及支出ニ係ル領收證書共自今總テ本縣會計主務官宛ヲ以可差出此旨相達候事

○明治十九年九月六日訓令第貳拾號 郡役所

本廳ヨリ交付金ニ對スル領收證書ノ義ハ該金主務ノ課署ニ可差出旨客年^六月郡乙第三拾五號ヲ以テ達置タル所自今内國稅徵收費ヲ以テ交付スルモノハ收稅部ニ其他ハ總テ第二部ニ送付スヘシ但證書式ハ從前ノ通

○明治十八年七月四日郡乙第四拾八號 郡役所

十八年度以降國庫金ハ大藏省ニ於テ管守相成候ニ付該金遞送之儀ハ大藏省現金取扱方第三國立銀行松江支店ヲシテ遞送セシメ候條該金到達三日以内本縣會計主務官宛領收證書^{領收}ノ書式定メ^{領收}ノ書式ニヨル^{領收}ハ其式ニヨル^{領收}ヘシ^{領收}ヲ調製シ該取扱方へ交付スヘシ此旨相達候事

但成規ニヨリ差出スヘキ正當本人ノ受領證書ハ尙從前ノ手續ヲ以テ本廳へ送達スヘシ

●證明

○明治二十年六月二十四日訓令第六拾八號 郡役所
第二部歳入金毎月収入額金庫ト照合之上上納副書及納付正書トモ送付方脱漏無之旨本年六
月分ヨリ翌月五日限リ證明スヘシ

○明治二十一年四月四日訓令第四拾九號 郡役所

本縣經費ノ支辨ニ屬スルモノ請求方之義ニ付客年^三訓令第五拾壹號ヲ以テ相達置候處二十
年度以降ハ尙別紙書式ニ依リ翌年度四月五日限^{月二十四日迄延期ス}本廳會計主務官ニ證明
スヘシ

(別紙書式) 證明書

明治何年度本縣經費ノ支辨ニ屬スルモノ請求方(或ハ本月何日仕譯書ヲ以テ縣知事へ上申
之外)一切脱漏無之候條茲ニ證明候也

年 月 日

郡長官姓名

會計主務官宛

沿革要領

十六年十月郡乙第八十一號雜收入金脱漏ノ有無証明ノ件達○十七年三月郡乙第二十九號十六年度以降
官費支拂ニ係ル諸費ハ總テ正當受取人ノ証書ヲ取付クヘキ旨達

四 公債 貸附

●公債

○明治二十年三月三十日縣令第四拾貳號

諸記名公債證書元利及ヒ賦金拂渡方之儀ニ付出雲石見兩國ハ明治十九年九月縣令第二十號隱
岐國ハ同年十一月縣令第四十九號ヲ以テ布達候處右拂渡場所其他共更ニ左ノ通相定候條其旨
相心得期日通届出ヘシ

但從前之通松江又ハ濱田代理店ニ於テ引續受取度者ハ此際更ニ届出ルニ及ハス

第一 元利賦金拂渡場所ハ左ノ如シ

松江代理店

右出張所

廣 瀬 掛 合 大 東 今 市 佐 摩 川 本 隱 岐

濱田代理店

右出張所

益 田 津 和 野

第二 來ル四月十五日限リ第一號書式ニ準シ印鑑^{戶長與印}ヲ要ス 並受取場所ヲ指定シ其取扱所

ハ届出ヘシ

但受取場所ハ縣廳ヘモ同時届出ヘシ

第三 爾後轉籍改姓名改印新ニ公債ヲ讓受^{引受タルモノ}以上^{戶長與印}ヲ要ス 及受取場所變換等ノ

第二類 第六節 公債 貸附

トキハ其都度第三號以下ノ書式ニ準シ縣廳并其取扱所へ届出ヘシ

第一號書式

印鑑御届

記名公債證書所有候ニ付別紙印鑑二葉片長與印ヲ以御届仕候也

年號 月 日

何郡何町村何番屋敷或ハ寄留敷

華士族
平民 敷

何 條 某 印

(後見人ヲ置トキハ)

何郡何町村何番屋敷或ハ寄留敷 華士族
平民 何條某後見人

何郡何町村何番屋敷或ハ寄留敷 華士族
平民 何條某 印

何 條 某 印

日本銀行何地代理店又ハ何地出張所宛

用紙美濃紙

何郡何町村何番屋敷或ハ寄留敷

華士族
平民 敷

少四寸

印鑑〇 何 條 某

五 寸

後見人ヲ置トキハ

何郡何町村何番屋敷或ハ寄留敷 華士族
平民 何條某後見人

何郡何町村何番屋敷寄留敷 華士族
平民 何 條 某

印鑑〇

五 寸

(名前以下此例ニ準ス)

第二號書式

公債證書 元利或ハ
賦金敷 受取場所ノ義御届

記名公債證書所有候處來々五月以降 元利或ハ
賦金敷 何處ニ於テ受取方致度候間此段御届仕候也

知事又ハ日本銀行何地代理店或ハ何地代理店何地出張所宛

(宛名以下此例ニ準ス)

第三號書式

轉籍之義御届

第一類 第六節 公債 貸附

記名公債證書所有是迄何處ニ居住候處今般何郡何町村何番屋敷へ移轉候ニ付此段戸長與印ヲ以御届仕候也

第四號書式

改姓之義御届

記名公債證書所有候處今般何ニ據リ何々ト改姓候ニ付此段戸長與印ヲ以御届仕候也

第五號書式

改印之義御届

記名公債證書所有候ニ付曾テ印鑑御届置候處今般何ニ據リ改印候ニ付別紙印鑑壹葉戸長與印ヲ以御届仕候也

第六號書式

印鑑御届

記名公債證書今般買受候ニ付別紙印鑑壹葉戸長與印ヲ以御届仕候也

第七號書式

公債證書ハ元利或取取場處變換之義御届

記名公債證書所有候ニ付是迄何處ニ於テ元利或取取場處變換之義御届
取方致度候間此段御届仕候也

○明治二十一年二月一日縣令第二十一號

海軍公債及整理公債記名證書所有者、後見人ニ於テ其記名證書ヲ無記名證書ニ變換又ハ讓賣ノトキ及客年三、大藏省告示第二十九號ニ依リ六分以上利付記名公債證書ヲ整理公債證書ニ引換フトキハ親類連署ノ上戸長ノ證明ヲ受クヘシ

●貸付

○明治十五年三月十四日郡乙第拾六號 郡役所
貸下金其他諸上納金未納ノ者他ノ負債ノ爲メ裁判所ニ於テ身代限ノ所分ヲ受ル時ハ縣廳ニ於テ未納金請求ノ手續ヲナスモ配當金ハ不足アルトキハ其裁判所所在ノ郡役所へ交付ノ筈ニ候條郡役所ニ於テハ之ヲ縣廳へ送達スベシ此旨相達候事

○明治十五年七月廿六日甲第百廿四號
官金拜借ノ向他郡内轉籍之節返納方ノ義云々明治十二年本縣甲第九十九號ヲ以テ及布達置候處右ハ自今出願ニ及ハス候條其轉籍地郡役所へ戸長役場返納スベシ此旨布達候事
但寄留中ノモ其寄留地郡役所へ返納致シ度モノハ其旨本籍又ハ寄留地郡役所へ願出ベ

○明治十九年五月二十六日甲第七拾三號
諸返納金及諸上納金國稅地方稅備荒未納者死亡退隱跡相續又ハ改姓名轉籍等ノ節ハ其時々届出ヘシ
右布達候事

○明治十二年十月廿二日乙第二百一十一號 郡 町 村
 稅外收入及ヒ諸返納金等國稅金領收順序ニ準擬送納可致旨本縣乙第百三十三號ヲ以相違置
 候處今般大藏省乙第三十六號達之趣モ有之貸下金ニ限從前ノ手續ヲ以取立一旬日毎之ヲ取
 廻別紙雛形ニ倣ヒ預書ヲ作り大藏省爲替方へ相預ケ預リノ證印ヲ取り而シテ右預リ證書へ
 返納證書并ニ仕譯書副付本廳へ送納可致此旨相達候事
 但一周年返納額及ヒ返納期限前月五日限收稅委員へ可差出豫算書等ハ爾後差出ニ不及候
 事

(別紙) (明治十三年一月郡乙第六號全年五月郡乙第四十號ヲ以更正)

(料紙西ノ内紙八ツ切)

何々貸下

何年ヨリ何ヶ年賦

一金何程

明治何年分或ハ何年分之内

右現金何月何日大藏省爲替方何銀行へ相預ケ上納候也

年號月日

何郡長印

○明治十九年五月二十五日郡乙第五拾號 郡役所
 諸貸付返納金科目左ノ通大藏省ヨリ訓令相成候ニ付爲心得此旨相達候事

款	項	目	節
貸付返納金	貸付返納金		
		舊 藩 貸	從前ノ舊藩貸ヲ云フ
		勸 業 貸	從前ノ勸業貸ヲ云フ
		繰 替 貸	豫備金繰替金舊島田組貸付等ヲ云フ
		雜 種 貸	從前ノ救助貸雜貸官方貸外國債代償石高貸并從來雜收入シテ納入スヘキ者ノ内諸過渡金諸排下代諸貸下料其他訴訟入替償却金等ノ類ニシテ年月賦及身代限ノ處分ヲ受テ身代持直次第上納スヘキ者ヲ云フ

沿革要領 明治十年八月乙第七十三號貸付金アルモノ退隱相續死亡絶家改名ノ節尙書ハ毎月取給差出シム全年九月乙第九十七號更正○十一年二月乙第十六號貸下金抵當不動產天災ニ罹リ書入ノ實効ヲ害シタルハ屆出シム○全年四月乙第六十一號官金貸附人死去其他異動ノ有無毎月届出シム○十二年六月甲第九十九號官金拜借者他郡へ移住シ移住地ニテ返納セントスルハ本籍郡役所へ出願セシム○全年六月乙第三號諸貸下金ヲ受クルモノ他郡ニテ返納申立ルトキハ未納金ハ其郡役所へ引繼届出シム○十五年二月乙第十三號并借金アルモノ年延改ハ据道願ニハ未納金額ヲ揭ケシム○十九年五月乙第七十四號十年第七十三號十一年乙第六十一號廢止

五 雜

○明治十一年七月四日乙第七十二號 各區區長

地所暨諸物品等公賣ニ際シ各自投票中若シ同價アレハ其前ニ入札スルモノヲ以テ落札トス
ヘキニ付豫テ入札人エ告示可致直且區會所ニ於テハ其受付タル順序ヲ以テ封紙ニ番號ヲ朱
書シ區長ニテ小印ヲ捺シ置キ期日ニ至リ取纏進達可致此旨相達候事

但他人ノ委託等ヲ受ケ一人ニシテ二封以上ヲ持參スルモノアレハ本人ニ於テ順序ヲ定メ
サレ可成ハ其面前ニテ本人ノ通リ番號朱記可致事

○明治十四年二月十日甲第二十三號

銅貨交換方ノ儀ニ付テハ客年本縣中第百十二號布達之趣モ有之日常取引上差闕之向ハ各銀
行ニ就キ交換之道有之候處間ニハ銅貨拂底ヲ名トシ各種ノ預リ切手ヲ製シ甚シキニ至テハ
正シク金額ヲ掲ケタル預リ券等發兌致候者モ有之哉ニ相聞以テ外ノ事ニ付自今堅ク令禁止
候條此旨布達候事

○明治十九年一月廿一日郡乙第七號 郡役所

裁判所ニ於テ犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收シタル物件ハ自今郡役所ニ受繼郡役所ニ於テハ便宜
之レヲ賣却スヘシ

但賣却代金雲石兩國ハ明治十五年十月本縣丙第四十號布達雜收入金納付順序ニ依リ取扱其
納金證書ニ物件明細書ヲ添隱岐國ハ明治十五年三月丁第拾四號達隱岐國稅地方稅送納順

序ニ依リ取扱納金預リ證書ニ物件明細書ヲ添差出スヘシ

右相達候事

○明治十九年五月四日郡乙第三十八號 郡役所

本年一月本縣郡乙第七號達裁判所ニ於テ犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收シタル物件ハ左ノ手續ニ據リ取扱フヘシ

右相達候事

- 第一項 裁判所ヨリ沒收物件引渡ノ通知ヲ得タルハ其物件受取ノ手續ヲ爲シ物件ノ性質ニ從ヒ得失ヲ量リ其廳ニ取寄ヒ又ハ其所在地ノ戸長ニ保管セシム可シ
- 第二項 沒收ノ物件ハ裁判所ヨリ受取タル後ニケ月以内ニ於テ公賣ニ付スヘシ但公賣ノ場所ハ物件所在ノ地ニ限ラス總テ適當ノ地ヲ選定スルモノトス
- 第三項 沒收物件中官廳ノ烙印ノルモノハ公賣ニ付スル前其烙印ヲ削除スヘシ
- 第四項 公賣ノ方法ハ入札拂若クハ競賣ニ據ルヘシ
- 第五項 沒收物件公賣ニ付スルモ買受人ナキ歟若クハ代價相當ノ價格ニ達セサルトハ公賣ヲ停止シ爾後三ケ月以内ニ於テ更ニ公賣ニ付スヘシ
- 第六項 沒收物件中毀損腐敗ニ係リ若クハ物品輕微ニシテ公賣ニ付スルモ價值ナシト認ルモノ或ハ運搬費置場敷料ヲ要シ公賣スルモ其得失相償ハサルモノ或ハ第五項期限内ニ於テ公賣ニ付スルモ買受人ナク若クハ代價不相當ニシテ公賣ヲ停止シタルモノハ適宜處分

シ其額未届出ツヘシ

- 第七項 沒收物件中其物品取扱上特ニ成規アルモノハ其時々伺出ツヘシ
 - 第八項 第四項ニ依リ拂受人定リタルハ受書ヲ徵シ進達シ其納額告知書ノ配付ヲ命シタルハ速ニ拂受人ニ交付シ代金金庫ニ納付濟ヲ認メ談物件下付スヘシ
但戸長役場ニ於テ拂下ルトキモ本項同様取扱ハシムヘシ
 - 第九項 沒收物件ノ中酒類ノ如キ腐敗シ易キモノハ瞬速公賣ニ付シ拂受人定リタルハ歳入歳出納規則第十六條但書ニ準シ該代價ハ直チニ現金ヲ以徵收シ其時々本人上納證書ニ仕譯書ヲ付シ送納スヘシ(明治二十年十二月訓令第二百四十三號ヲ以追加以下操下ク)
 - 第十項 凡ソ本件ニ關スル伺上申等ハ犯罪ニ係ルモノト犯則ニ係ルモノヲ各別ニ取調進達スヘシ
 - 第十一項 物件ニ係ル費用監守人料 評價人料 人足賃 倉敷料 牛馬飼料等ノ類ハ本廳ヨリ交付スヘクニ付犯罪ニ係ルモノト犯則ニ係ルモノヲ各別ニ取調申出ツヘシ
但費用兩件ニ連帶スルモノハ相當區分スヘシ
- 明治十九年六月二十四日郡丁第八號 周吉 總地 海士 如夫 郡役所ヲ除キ 郡役所
犯罪又ハ犯則ニ依リ警察官ニ於テ沒收シタル物件及遺失物ノ官沒ニ屬スル物件ハ自今警察署所管地内ノ郡役所ニ受繼キ公賣ニ付スヘシ但受繼キ其他取扱順序ハ本年五月本縣郡乙第三十八號達ニ準據スヘシ

第二類 第六節 雜

右相達候事

○明治二十年五月九日訓令第百二十一號 隱岐國 郡役所 戶長役場
 本年^四大藏省第四十二號ヲ以周吉郡西郷へ國庫金出納支所設置ノ備告示相成候ニ付テハ右
 開始ノ上ハ客年^四乙第四十四號達歳入歳出々納規則同取扱順序ニ從ヒ施行スヘシ
 明治十五年^四丁第十四號達書中本文ニ抵觸スル條項及全十九年^四丁第七號達ハ渾テ廢止
 ス

○明治二十年五月九日訓令第百二十三號 隱岐國 郡役所

其地國庫金出納支所開所ノ日ヨリ國庫歳入第二部及歳出取扱ニ關スル明治十九年郡丁第四
 號乃至第六號全第八號達及本年訓令第二十六號全第四十二號ハ其郡役所ニ於テモ履行スヘ
 シ

但本文令達ハ別ニ下附ス

○明治二十年六月二十四日訓令第百六十九號 郡役所
 海軍志願兵検査所舖設及諸費支拂方手續左ノ通相定ム

海軍志願兵検査所舖設及諸費支拂方手續

- 第一項 志願兵検査所ハ開設スヘキ場所令達ヲ得タル上其舖設ヲ取計フヘシ
- 第二項 検査所ハ寺院學校若クハ民家等適當ノ家屋ヲ借入其廣狹ハ檢丁ノ多寡ニ依ルト雖
其控所ヲ除クノ外凡八疊ニマ間ヨリ狹カラサル場所ヲ撰定スヘシ

第三項 検査所小使ハ一ヶ所一人日給金貳拾錢以内ヲ以テ使用スヘシ

第四項 検査所備付器具器械ハ人員ノ多寡ニ依リ相當ノ備付ヲ爲スヘシ
 但徴兵検査所備付品ヲ以テ可成辨用シ費額不嵩様注意スヘシ

第五項 前各項ノ外ハ客年^十訓令第五十一號徴兵検査所心得方ニ準據スヘシ

○明治二十一年十月九日訓令第百四十五號 郡役所

第二部歳入ノ内本廳へ現金徴收ニ係ルモノハ本年(九月)訓令第百四十二號國庫金出納所事
 務順序第二章中第十九條ニ基キ自今納人ヨリ直チニ金庫へ納付セシメ郡役所ニ於テハ納人
 ヲリ甲號預リ證書ヲ爲差出本廳へ送納(上納証書或ハ請書若クハ仕譯書ヲ添)スヘシ

第三類

第一節

一 警察署

● 警察區畫

○明治二十二年三月二十一日縣令第二十五號
明治二十一年八月縣令第八十三號島根縣警察區畫別表ノ通改定シ明治二十二年四月一日ヨリ
施行ス

島根縣警察區畫表

○ 警察本部

位置 松江市殿町縣廳內

○ 松江警察署

位置 松江市殿町

所轄區畫

出雲國

松江市

島根郡	生馬村	講武村	野波村
秋鹿郡	本莊村	持田村	東川津村
意宇郡	朝酌村	大芦村	加賀村
直轄區畫			
松江市			
島根郡ノ中			
法吉村			
千酌村			
西川津村			
御津村			
意宇郡ノ中			
津田村	大庭村	乃木村	忌部村
湯町村	玉造村	來海村	宍道村
波入村	二子村		
松江警察署美保關分署			
所轄區畫	位置	島根郡美保關村	
島根郡ノ中			

美保關村	片江村	森山村	
松江警察署秋鹿分署		位置	秋鹿郡秋鹿村
所轄區畫			
秋鹿郡			
仲野村	大野村	秋鹿村	長江村
古曾志村	古志村	佐太村	惠曇村
松江警察署揖屋分署		位置	意宇郡揖屋村
所轄區畫			
意宇郡ノ中			
揖屋村	竹矢村		
岩坂村	熊野村	出雲郷村	意東村
安來警察署		位置	能義郡安來町
所轄區畫			
出雲國			
能義郡			
直轄區畫			
能義郡ノ中			

荒島村	赤江村	安來町	島田村
宇賀莊村	大塚村	安田村	母里村
井尻村	赤屋村	能義郡廣瀬村	
警察來署 廣瀬分署	位置		
能義郡ノ中	飯梨村	能義村	比田村
廣瀬町	布部村	大原郡木次村	
山佐村			
木次警察署	位置		
所轄區畫			
出雲國	加茂村	神原村	木次村
仁多郡	佐世村	幡屋村	春殖村
大原郡			
直轄區畫			
大原郡			
屋裏村			
日登村			

阿用村	海潮村	大東村	
警察次署 三成分署	位置	仁多郡三成分署	
所轄區畫			
仁多郡	三成村	龜嵩村	島上村
布勢村	八川村	馬木村	阿井村
横田村	温泉村		
三澤村			
掛合警察署	位置	飯石郡掛合村	
所轄區畫			
出雲國			
飯石郡			
直轄區畫			
飯石郡ノ中			
一宮村	三刀屋村	鍋山村	飯石村
中野村	田井村	吉田村	掛合村
須佐村	多根村	松笠村	波多村
警察合署 赤名分署	位置	飯石郡赤名村	

所轄區畫

飯石郡ノ中

志々村

今市警察署

所轄區畫

出雲國

出雲郡

楯縫郡

神門郡

直轄區畫

神門郡ノ中

窪田村

布智村

四纏村

鹽冶村

今市警察署
所轄區畫

杵築分署

願原村

位置 神門郡今市町

赤名村

來島村

山口村

古志村

川跡村

朝山村

乙立村

高松村

大津村

稗原村

知井宮村

高濱村

今市町

上津村

位置 神門郡杵築町

神門郡ノ中

田儀村

神西村

杵築村

久村

今市警察署
所轄區畫

出雲郡

莊原村

久木村

平田分署

今市警察署
所轄區畫

楯縫郡

平田町

鱒瀬村

佐香村

大田警察署

田岐村

園村

日御碕村

荒茅村

江南村

荒木村

鵜鷺村

位置 出雲郡莊原村

西濱村

杵築町

遙堤村

位置 伊波野村

直江村

位置 楯縫郡平田町

伊波野村

出西村

出東村

位置 國富村

北濱村

東村

位置 安濃郡大田村

鷺巢村

久多美村

位置 灘分村

西田村

檜山村

邑智郡ノ中	阿須那村	口羽村	高原村	出羽村
田所村	市木村	市木村	日貫村	非原村
中野村	矢上村			
濱田警察署		位置	那賀郡濱田町	
所轄區畫				
石見國				
那賀郡				
直轄區畫				
那賀郡ノ中				
濱田町	石見村	國分村		伊南村
雲城村	美又村	和田村		都川村
今市村	波佐村	漁山村		大内村
周布村	長濱村	三階村		上府村
下府村	久佐村	木田村		
濱田警察署		位置	那賀郡江津村	
所轄區畫				
濱田				
警察署				
江津分署				
所轄區畫				

那賀郡ノ中	川波村	都濃村	江津村	都治村
	下松山村	松山村	跡市村	川平村
	有福村	二宮村	都野津村	渡津村
	淺利村	黒松村		
濱田			位置	
警察署			那賀郡岡崎村	
岡崎分署				
所轄區畫				
那賀郡ノ中				
高城村	長安村	杵束村		黒澤村
西隅村	井野村	西浜村		大麻村
岡見村	古市場村	岡崎村		芦谷村
益田警察署		位置	義濃郡益田町	
所轄區畫				
石見國				
美濃郡				
直轄區畫				
美濃郡ノ内				

益田町	安田村	鎌手村	種村
北仙道村	豐川村	豐田村	高城村
二條村	美濃村	小野村	中西村
高津村	吉田村		
益田警察署 所轄區畫	位置 美濃郡都茂村		
美濃郡ノ中	都茂村	二川村	匹見上村
東仙道村	眞砂村	道川村	
匹見下村		位置 庶足郡津和野町	
津和野警察署 所轄區畫			
石見國			
庶足郡			
津和野町	喜時雨村	木部村	青原村
日原村	須川村	小川村	柿木村
七日市村	朝倉村	六日市村	藏木村
西郷警察署	位置 周吉郡西郷西町		

所轄區畫	隱岐國	周吉郡	穩地郡	海士郡	知夫郡	直轄區畫	周吉郡	中町	加茂村	平村	有木村	犬來村	東郷村	港村	隱地郡	小路村
西町	今津村	上西村	八田村	釜村	飯美村	西村	津戸村	東村	西田村	原田村	布施村	大久村	中村	都万村	那久村	
東村	西田村	原田村	布施村	大久村	中村	都万村	那久村	駒木村	下西村	池田村	飯田村	卯敷村	元屋村			

油井村 南方村 苗代田村 那久路村
 郡村 山田村 北方村 代村
 久見村 律後村
 西郷 浦郷分署 位置 知夫郡浦郷村
 所轄區畫 知夫郡 美田村 別府村
 浦郷村 宇賀村 海士郡 知々井村
 海士郡 布施村 崎村 太井村 福井村
 豐田村 宇受賀村 海士村
 ○明治二十二年三月二十五日告示第四十七號
 島根縣警察區內巡查駐在位置別表ノ如シ但新設ニ係ルモノハ明治二十二年四月ヨリ施行ス
 島根縣警察區內巡查駐在位置表
 松江警察署
 直轄區內巡查駐在位置
 島根郡

法吉村	大字	黒田
生馬村	全	下佐陀
講武村	全	北講武
千酌村	全	千酌
本莊村	全	本莊町
西川津村	全	西川津
朝酌村	全	朝酌
加賀村		
意字郡		
津田村	大字	西津田
大庭村	全	大庭
乃木村	全	乃白
玉造村	全	玉造
來海村	全	東來海
來道村	全	東來海
波入村	全	波入

警松 江美保關分署

所轄區內巡查駐在位置

鳥根郡

片江村 大字 片江
森山村 全 森山

警松 江秋鹿分署

所轄區內巡查駐在位置

秋鹿郡

伴野村 大字 美野
大野村 全 大野上分
長江村 全 東長江
佐太村 全 佐陀宮内

警松 江揖屋分署

所轄區內巡查駐在位置

意宇郡

竹矢村 大字 馬瀧
意東村 全 下意東
熊野村

安來警察署

直轄區內巡查駐在位置

能義郡

荒島村 大字 荒島
島田村 全 吉佐
宇賀莊村 全 野外
大塚村 全 大塚町
母里村 全 母里町
赤屋村 全 赤屋

警安 來廣瀬分署

所轄區內巡查駐在位置

能義郡

第三類 第一節 警察署

飯梨村	大字	植田
比田村	全	西比田町
山佐村	全	上山佐
布部村	全	布部

木次警察署

直轄區內巡查駐在位置

大原郡

加茂村	大字	加茂中
神原村	全	神原
日登村	全	東日登
佐世村	全	上佐世
春殖村	全	大東下分
阿用村	全	川井
海湖村	全	諏訪
大東村	全	大東町

六次警察署

所轄區內巡查駐在位置

仁多郡

布施村	大字	佐白
龜嵩村	全	龜嵩町
横田村	全	横田町
馬木村	全	大馬木
阿井村	全	上阿井町
温泉村	全	湯村
島上村	全	大呂

掛合警察署

直轄區內巡查駐在位置

飯石郡

一宮村	大字	給下
三刀屋村	全	三刀屋町
鍋山村	全	乙加宮

第三類 第一節 警察署

飯石村	全	多
吉田村	全	吉田町
波多村	全	波多
須佐村	全	宮内

所轄區內巡查駐在位置

飯石郡	大字	八神
志々村	全	頓原町

今市警察署

直轄區內巡查駐在位置(明治二十二年十二月告示第百六十四號ヲ以更正)

神門郡	大字	一窪田
窪田村	全	乙立
乙立村	全	古志町
古志村	全	古志町

高松村	全	松寄下
高濱村	全	里方
大津村	全	大津町
鹽冶村	全	下鹽冶
朝山村	全	上朝山
稗原村	全	宇那手

今市警察署
所轄區內巡查駐在位置

神門郡	大字	口田儀
田儀村	全	小田
田岐村	全	二部
江南村	全	大池
西濱村	全	神西沖分
神西村	全	西園
園西村	全	北荒木
荒木村	全	北荒木

第三類 第一節 警察署

日御碕村	全	宇
遙地村	全	入
荒茅村		南

警今 市 莊原分署
 所轄區內巡查駐在位置 (明治二十二年十二月告示第百六十四號ヲ以更正)
 出雲郡

莊原村	大字	三
出西村	全	出
伊波野村	全	富
直江村	全	直江
久木村	全	福
出東村	全	黒
		目

警今 市 平田分署
 所轄區內巡查駐在位置
 備後郡

灘分村	大字	平田灘分
國富村	全	國
鷺葉村	全	東林
鱒淵村	全	河
北濱村	全	十六島
佐香村	全	小伊津
檜山村	全	岡
東山村	全	小
		境

大田警察署
 直轄區內巡查駐在位置
 安濃郡

島井村	大字	鳥
富山村	全	山
佐比賣村	全	池
川合村	全	川
刺鹿村		台

波根西村
波根東村

大田警察署
所轄區內巡查駐在位置

遼摩郡

久利村 大字 久利

明治村 全 天河内

五十猛村

宅野村

静間村

大田警察署
温泉津分署
所轄區內巡查駐在位置

遼摩郡

大家村 大字 大家本郷

波積村 全 波積本郷

湯里村 全 湯里
福光村

川本警察署

直轄區內巡查駐在位置

邑智郡

吾郷村 大字 築瀬

濱原村 全 濱原

澤谷村 全 九日市

都賀村 全 都賀西

布施村 全 布施

長谷村 全 八戸

市山村 全 市山

川戸村 全 川戸

川越村 全 渡川

三原村 全 三原

祖式村 全 祖式

第三類 第一節 警察署

君谷村 全 惣 森

川本出羽分署

所轄區內巡查駐在位置

邑智郡

阿須那村 大字 阿須那

口羽村 全 下口羽

高原村 全 高見

田所村 全 下田所

市木村

日貫村

井原村

矢上村

濱田警察署

直轄區內巡查駐在位置

那賀郡

國分村 大字 國分

伊南村 全 佐野

雲城村 全 七條

美又村 全 今福

都川村 全 都川

今市村 全 今市

波佐村 全 波佐

大内村 全 内

長濱村 全 長濱

下府村

濱田警察署

所轄區內巡查駐在位置

那賀郡

川波村 大字 敬川

都野村 全 嘉久志

松山村 全 市

第三類 第一節 警察署

跡市村	全	跡市
有福村	全	上有福
都野津村		
渡津村		
淺利村		
黒松村		

濱田警察署
所轄區内巡查駐在位置

那賀郡

長安村	大字	長安本郷
杵束村	全	木都賀
黒澤村	全	下古和
井野村	全	井野
西湊村	全	湊野
岡見村		

益田警察署

直轄區内巡查駐在位置

美濃郡

安田村	大字	津田
種村	全	下種
豊田村	全	横田
高城村	全	白岩
二條村	全	上黒谷
美濃村	全	美濃地
小野村	全	飯浦
中西村	全	白上
高津村	全	高津

益田警察署

都茂分署

美濃郡

二川村	大字	宇津川
-----	----	-----

第三類 第一節 警察署

匹見上村	全	匹	見
匹見下村	全	澄	川
眞砂村	全	波	田

津和野警察署

所轄區內巡查駐在位置

鹿足郡

木部村	大字	長	福
青原村	全	青	原
日原村	全	日	原
柿木村	全	柿	木
七日市村	全	七	日
六日市村	全	六	日

西郷警察署

直轄區內巡查駐在位置

周吉郡

中村	飯田村	原田村
津戸村	北方村	

穩地郡

西郷警察署 浦郷分署

所轄區內巡查駐在位置

知夫郡

福井村	知夫村	別府村
海士郡	布施村	

○明治二十二年四月一日告示第五十五號 松江市 松江警察署所轄松江市內巡查派出所左ノ如シ

松江 警署	松江市殿町巡查派出所	位置	松江市大字殿町
全	上松江市末次巡查派出所	全	松江市大字末次
全	上松江市本町巡查派出所	全	松江市大字本町
全	上松江市天神巡查派出所	全	松江市大字天神
全	上松江市堅町巡查派出所	全	松江市大字堅町

巡査

○明治十九年十二月一日告示第百二十七號

島根縣巡查採用規則別紙之通相定、明治十七年二月甲告第二十五號告示巡查召募規則ハ廢止ス

(別紙)

島根縣巡查採用規則

- 第一條 巡查ハ試驗ノ上採用ス
- 第二條 試驗種目左ノ如ク但第一種ニ不合格ノ者ハ他ノ試驗ヲ爲サス
- 第一種 体格
 - 一 體質ノ良否其他職務上ニ害アル病故ノ有無ヲ驗ス
- 第二種 技藝
 - 一 法律規則 刑法治罪法及警察法規警務要書等

二 歷史地理

日本外史皇朝史略及日本地誌要略等

三 作文

假名交リ論說文若クハ報告文

四 算術

加減乘除

五 寫字

楷行草諸體

第三條 試驗ハ警察本部ニ於テ之ヲ行フ但其期日ハ臨時廣告ス

第四條 左ノ諸項ニ該ル者ハ採用セズ

- 一 二十年未滿三十五年以上ノ者
- 二 身幹五尺一寸ニ滿タサル者
- 三 滿五年以上勤續スル能ハサル者
- 四 徵兵ニ相當スル者
- 五 重罪ノ刑又ハ輕罪重禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ全上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ付セラレタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者但舊法ニ依リ施體ノ刑ニ處セラレタル者亦之ニ準ス
- 六 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
- 七 巡查懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職セラレ若クハ故ナク巡查ヲ辭職シテ二年ヲ經サル者
- 八 身分不相應ノ負債アル者又ハ身分限リノ處分ヲ受ケ排債ノ義務ヲ終ヘサル者

第三類 第一節 警察署

九品行方正ナラサル者及酒癖又ハ暴行ノ癖アル者

第五條 巡查志願ノ者ハ第一號以下ノ書類ヲ具シ警察本部ニ差出スヘシ但試驗落第ノ者ハ滿三ヶ月ヲ經タル後ニアラサレハ再ヒ出願スルヲ得ス

第六條 保証人ハ年齢二十年已上ニシテ本縣下居住又ハ寄留ノ者ニ限ル但巡查奉職中ノ者ハ保証人タルヲ得ス

第七條 陸軍現役滿期下士ニシテ志願ノ者ハ學術試驗ヲ要セス採用スルコトアルヘシ(明治二十二年十一月告示第五百五十四號ヲ以追加)

第一號

巡查志願書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地族
(某何男兄弟等)
(寄留人ナルハ左ノ肩書ヲ加フヘシ)
當時島根縣何國何郡何町(村)何番地
(何某方)寄留

何 某

年號月日生
何年何ヶ月

本縣巡查奉職志願ニ候間御試驗奉願候也

年月日

右何 某印
保証人

何 某印

知事宛

前書何某巡查志願ニ付取調候處巡查採用規則第四條第一四五六八項ニ抵觸ノ廉無之候也

年月日

何 某印

何郡町(村)戸長

(他管人ハ與書ヲ要セスト雖本縣下寄留ノ者ナルハ左ノ與書ヲナ
スヘシ)

前書何某云々前同但何年何月來寄留ノ者ニシテ其已前ニ係ル事項ハ
不分明ニ候也

第二號

誓約書

今般巡查志願候處御採用ノ上ハ左ノ條件確守可致候

一職務ノ規則及上官ノ命令ヲ遵守スル事

二正當ノ事由ナクシテ奉職滿五年以内ニ辭職セサル事

三職務權外ノ事ヲ論議セサル事

第三類 第一節 警察署

四職務ノ傍須要ノ技藝ヲ練習スル事
五濫リニ金錢ヲ借用セサルヲ及貸借上ノ保証人トナラサル事
六品行ヲ慎ム事
右誓約相違無之候也

年月日

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地族(某何男兄弟等)

何 某印

保証人

何 某印

知事宛

第三號

履歷書

年月日

一何々卒業候事

何々校

年月日

一何々申付月給何程支給候事

何府廳

年月日

一何々ヲ命シ月俸何圓ヲ給ス

何府廳

年月日

一任何々

何々

年月日

一依願免本官

何々

(此他任免賞罰ニ係ル事項ハ漏レナク列記スヘシ)

右相違無御座候也

年月日

何 某印

第四號

保証書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

何番地族(某何男兄弟)

(寄留人ナル片ハ左ノ肩書ヲ加ヘシ)

(當時島根縣何國何郡何町(村)何番地

(何某方)寄留

何 某

年號月日生
何年何ヶ月

右本縣巡查奉職志願ニ候處御採用之上ハ誓約ノ條件固ク相守ラセ万一不都合ノ儀有之節ハ一切負擔可致候依テ保証書差出候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地族
(寄留人ナルモハ左ノ肩書ヲ加ヘシ)
當時島根縣何國何郡何町(村)何番地
(何某方)寄留

年月日

知事宛

何 某 印

○明治二十年四月一日告示第七十七號

島根縣巡查看守給助上願届手續別紙之通相定本年四月一日ヨリ施行ス

(別紙)

島根縣巡查看守給助上願届手續

- 第一條 巡查及看守若クハ其遺族ニシテ給助ヲ受クヘキ者ハ左ノ各項ニ從ヒ縣廳ニ願出ヘシ
 - 一 勤續滿五年以上ニシテ退職ノ者又ハ職務ノ爲メ負傷シタル者ハ第一號書式ニ依ルヘシ
 - 二 職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及負傷後其傷疾ニ因テ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹

リ死亡スル者ノ遺族ハ孤兒又ハ孤兒ノ給助ヲ受クル者ナク祖父母父母若クハ二十歳未

- 三 第二項ノ場合ニ於テ寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受クル者ナク祖父母父母若クハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者ハ第三號書式ニ依ルヘシ

- 四 相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ癡篤疾ナルトキハ第四號書式ニ依ルヘシ
- 五 年金ヲ受クル寡婦再嫁又ハ死亡シタルトキハ孤兒滿二十歳ニ至ラサル者ハ第五號書式ニ依ルヘシ

- 六 第二項第三項ノ場合ニ於テ相續者タル孤兒又ハ兄弟姉妹滿二十歳以上ナルモ癡篤疾ナルトキハ第六號書式ニ依ルヘシ

第二條 死亡及癡篤疾ノ証明ハ公立病院長又ハ開業醫ノ診斷書ヲ以テスヘシ

第三條 給助年金ヲ受クル者コバ証書ヲ付與ス若シ盜難其他ノ事故ニヨリ証書ヲ失ヒタルトキハ其事由ヲ詳記シ速ニ証書ノ再渡ヲ請フヘシ

第四條 年金ハ毎年兩度三月ニ分チ半額宛下付スルニ付受給者ハ第八號書式ノ受領証ニ給助証書ヲ添ヘ縣廳ニ差出スヘシ其他府縣ニ在ル者ハ該官廳ニ於テ下付スヘシ但代人ヲ以スルトキハ委任狀ヲ持參セシムヘシ

第五條 療治料ヲ請求スルトキハ其事由並ニ治療日數等ヲ詳記シ主治醫ノ藥價書ヲ添ヘ三十日毎ニ縣廳ニ願出ヘシ

第六條 職務ノ爲メ負傷療治中ハ十五日毎トニ主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ其病狀ヲ縣廳ニ届出

第三類 第一節 警察署

治療ヲ止メタルトキハ速ニ届出ヘシ

第七條 年金ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ速ニ縣廳ニ届出ヘシ但第一第二第三ニ該ルモノ

ハ同時ニ給助證書ヲ返納スヘシ

一 公權ヲ剥脱セラレタル時

二 死亡

三 寡婦再嫁シ又ハ孤兒滿二十歳ニ至ル時

四 俸給ヲ受クル官職ニ就キタル時

五 公權ヲ停止セラレタル時

六 失踪シタル時

七 許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル時

八 轉住改氏名其他身分ノ異動アル時

第八條 前條々ノ願届ハ都テ所在地區戸長ノ與印ヲ受テ本縣内ノ者ハ所轄郡役所奉職中ノ

警察署 他府縣ノ者ハ其管廳ヲ經由スヘシ

第一號 用紙美濃紙以下皆同

退職給助願

某儀明治何年何月何日巡查拜命何年何月何日マテ何年何ヶ月間勤績候ニ付相當ノ給助金

下賜度此段奉願候也

明治 年 月 日

何縣何區何村何番地族
元巡查

氏 名 印

年 號 月 日 生

島根縣知事氏名殿

右當區町内本籍之者ニ相違無之候也

何村戸長

氏 名 印

又ハ

何區長

氏 名 印

其二

傷痕給助願

某儀明治何年何月何日何地ニ於テ何々服務中何ノ爲メ何部ニ負傷候處何等傷ニ認定相成
候ニ付相當ノ給助金下賜度此段奉願候也

(以下全上)

第二號

第三類 第一節 警察署

死亡給助願

夫何某儀巡守奉職中何々ノ爲メ何年何月何日死亡候ニ付相當ノ給助金下賜度別紙死亡診斷書及戸籍書相添親族連署ヲ以此段奉願候也

明治 年 月 日

何府何郡何町何番地族
右何某孤兒氏 名 印
年 號 月 日 生

全族籍

親族 氏 名 印

全族籍

親族 氏 名 印

島根縣知事氏名殿

(區戸長與書全上)

第三號

死亡給助願

氏名儀巡守奉職中何々ノ爲メ何年何月何日死亡候處某儀從來死者ニ因リ生計相營ニ居候ニ付相當ノ給助金下賜度別紙死亡診斷書及戸籍書相添親族連署ヲ以此段奉願候也

明治 年 月 日

何府何郡何町何番地族
右何某兄弟姉妹氏 名 印
年 號 月 日 生

全族籍

親族 氏 名 印

全族籍

親族 氏 名 印

島根縣知事氏名殿

右當區村內本籍ノ者ニシテ巡守給助例第九條ノ一項又ハ三四項ニ該ラサル者ニ候也

明治 年 月 日

何町戸長 氏 名 印

又ハ
何區長

氏 名 印

第四號

疾病給助願

第三類 第一節 警察署

某儀明治何年何月ヨリ御給助相受ケ本月ニテ滿二十歳ニ至リ候へ共從來^總疾ニ有之候間
仍相當ノ給助金下賜度別紙診斷書相添親族連署ヲ以テ此段奉願候也

明治 年 月 日

何^府縣^郡何^町村何^番地^族
故^巡守^查何^某長^男女
氏 名 印
年 月 日 生

全族籍

親族 氏 名 印

全族籍

全 氏 名 印

島根縣知事氏名殿

(區戶長與書全上)

第五號

孤兒給助願

故^巡守^查氏名寡婦某儀何年何月ヨリ御給助相受ケ居候處何年何月何日^再婚^死亡^候ニ付更ニ某へ
相當給助金下賜度別紙寡婦給助証書並戶籍書(及死亡診斷書)相添親族連署ヲ以テ此段奉願
候也

明治 年 月 日

何^府縣^郡何^町村何^番地^族
故^何某^長男^女
氏 名 印
年 月 日 生

氏 名 印

(以下全上但區戶長與書ハ第一號ノ通)

第六號

總^務疾給助願

氏名儀^巡守^查奉職中何々ノ爲ノ何年何月何日死亡候處某儀滿二十年以上ニ候へ共從來^總疾
ニ候間(從來死者ニ因リ生計相營^且總^務疾ニ候間)相當給助金下賜度別紙戶籍書及診斷書
相添親族連署ヲ以テ此段奉願候也

明治 年 月 日

何^府縣^郡何^町村何^番地^族
右^何某^何々
氏 名 印
年 月 日 生

氏 名 印

(以下全上但區戶長與書ハ第一號ノ通)

第七號

戶籍書

本書式ハ大要ヲ示スモノニ付實祭ニ於テハ出願者ニ必要ナル事項ヲ遺漏ナク此式ニ倣ヒ記載スルヲ要ス

第三類 第一節 警察署

族	華士族平民	姓	何 某
戶主	何年何月何日相繼或八別 居養實子等	名	明治何年何月何年何夕月
生年	年月日		
本籍住所	何縣何區何町何番地 或八何某方		
寄留籍住所	全上		
父母	某年號千支何月何日生		
養	全全		
祖	全全		
妻	某 何府縣何郡區何町村族何某何女 何年何月何日入籍		
嗣	子 某年号千支何月何日生		
次	女男 全全		
加兄	弟 全全		

右當區、町、內戶籍簿之通相違無之候也

明治年月日

第八號

何々給助金受領証

本年上半季分何々給助金何圓御下付相成正ニ領收仕候也

明治年月日

何町戶長

又ハ

何區長

氏名印

何府縣何郡區何町何番地族

元

氏名印

又ハ

故 巡查何某 孤兒

氏名印

島根縣會計主務 看守ノ受領証ハ本縣典獄當ニ認ムヘシ

氏名印

島根縣書記官氏名殿

右現今當區、町、內本籍(寄留籍)居住之者ニ相違無之候也

何町戶長

又ハ

氏名印

第三類 第一節 警察署

何區長

氏名印

○明治二十年四月六日訓令第九十七號 郡役所 戶長役場
本年^本月告示第七十七號島根縣巡查看守給助上願届手續第三號書式戶長與書中巡查看守給助
例第九條ハ左ノ如シ

第九條 左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス

- 一 俸給ヲ受クルノ官職ニ就キタル者
- 二 公權ヲ停止セラレタル者
- 三 失踪シタル者

四 許可ヲ得シテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

○明治十六年四月五日乙第三十九號 郡 町 村
巡查奉職ノ者私用旅行中天災若クハ疾病ニ罹リ該地ニ淹滞スルキハ郡戶長又ハ浦役人等へ
証書請求候儀可有之候條右之節ハ請求ニ應シ候様可致此旨相達候事

警察ニ關スル願届手續

○明治二十二年一月十二日告示第九號

明治十九年^十月^{十二}日告示第四百四十六號警察ニ關スル願届手續左之通改正ス但別段ノ規則アルモ
ノハ其手續ニ依ルヘレ

警察ニ關スル願届手續

第一類 所轄警察分署署ヲ經テ縣廳ニ出スモノトス

一 警察ニ關スル寄附願^{土地ニ關スルモノハ}

第二類 所轄警察署又ハ分署ニ出スモノトス

一 人家稠密ノ地ニテ巨火ヲ拔フ建物設立願

二 煙火製造願及販賣願

三 揚火願

四 火藥石割願

五 職遊獵ニ關スル願届

六 埋藏物發見届

七 變死傷入届

第三類 所轄警察署分署巡查派出所又ハ駐在巡查ノ中ニ出スモノトス
但漂流物拾得物届賊贓品届ノ外ハ巡行巡查ニ出スモ妨ケナシ

一 盜難届

二 遺失物届

三 拾得物届

四 漂流届

五 賊贓拾品届

六 火災届

第三類 第一節 警察署

○明治二十二年一月十二日告示第十號
警察署分署ニ届出ヘキ事項ノ中左ニ記載スル一類ノモノハ郵便ハカキヲ以テシニ類ノモノ
ハ口頭又ハ郵便ハカキヲ以テ届出ルコトヲ得

第一類

- 一古物商自己ノ所有物賣却届
- 二質屋組合頭取撰定又ハ變更届
- 三質屋頭取給料届
- 四湯錢届
- 五無木戸無見料ノ與行届
- 六山野火人報告
- 七遺失物届

第二類

- 一取締ニ屬スル諸營業廢止届
- 二職遊獵廢止届
- 三有害鳥獸威殺ノ爲發銃許可濟指令寫ヲ以テ届ノ件
- 四牛馬市ニ關スル届
- 五瘋癲人銷錮解除届

六屠牛届

七製氷積雪發賣許可濟指令寫ヲ以テ届ノ件

八公衆ノ用ニ供スル厠圍塵捨場等設廢改造届

九料理屋飲食店及貸席雇入レノ婦女解除届

十娼妓出稼治療治及一泊以上他行届

十一娼妓梅毒全治届

○明治二十二年一月十二日告示第十一號

警察署又ハ分署ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ至急ヲ要セサルモノハ其願書ヲ最寄駐在巡查

ニ差出スコトヲ得

○明治二十二年一月十二日告示第十二號

警察署又ハ分署ニ出ス願届書ノ當名自今左ノ通認ムヘシ但駐在巡查ニ出スモノト雖モ都テ

所轄署長當ニスルモノトス

何警察署長警部氏名殿

又ハ

何警察署

何分署長警部氏名殿

○明治二十年八月三十一日縣令第八十六號

第三類 第一節 警察署

本年大藏省令第拾二號ニ依リ差出ス可キ瀝入紙製造届ハ所轄警察署分署ヲ經由ス可シ

沿革要領

明治五年八月選卒ヲ置キ本業並見張場取設ク〇七年二月第五十七號捕亡規則達(全年三月十七日無號八年四月甲第百五十二更正)〇全年十二月甲第四百六十三號巡查擔當分番及巡查規則布達(九年一月甲第十二號更正)〇全年七月乙第九十三號行政司法警察規則達〇全年十月甲第三百二十八號警察區ヲ定メ出張所ニ差出ス可キ願届ノ目布達(十年六月丙第百四十九號更正全年十月甲第百八十一號全願届ノ戸長連署ヲ要セサルモノヲ定ム)〇全年三月甲第八十八號警察出張所ヲ警察署屯所屯所ト稱ス〇全年四月甲第百三十號令市警察署ヲ併合ニ移ス〇全年九月甲第百六十號警察本署ヲ縣廳内ニ置ク〇十一年一月甲第二十三號全署ヲ廢ス〇全年七月甲第百九十號巡查四百名ヲ定員トス〇十二年一月甲第四號警察署廢置所轄區改正〇全年三月甲第六十二號巡查四百五名ヲ定員トス〇全年十月甲第百九號警察署ヘ差出ス文書ハ其書ヲ充テシム〇全年十月丁第五十五號巡查回簿備置ノ義達(全年十二月丁第六十號更正)〇十三年四月乙第二十六號警察保課ヲ警察本署ト改稱ス〇十四年十二月甲第二百十四號警察署ニ於テ違警罪ヲ裁判セシム〇全年十月山第百六十五號警察署ヲ令市ニ移ス〇十五年三月甲第四十三號警察分署中改稱〇全年五月甲第百八十六號警察分署ニ警部補又ハ代理ヲ置キ司法警察官ノ職務取扱ハシム〇全年九月甲第百三十九號警察分署ニテ違警罪ヲ裁判セシム〇全年八月甲第百四十四號警察署ヲ受番所ヘ出ス可キ願届項目改定(十六年七月甲第百六十八號十七年九月甲第百三十五號全年置並管轄改定(全年十一月甲第百五十六號十九年四月甲第百五十六號更正)〇十六年九月甲第百八十一號警察署及分署位第七十五號更正)〇十七年二月甲第百廿五號巡查召募規則告示(全年三月甲第百七十四號十九年二月甲第百五十六號更正)〇全年十一月縣令第四十八號警察區區畫改定(二十年七月縣令第百七十四號廿一年一月縣令第五號全年七月縣令第七十九號更正)〇十八年三月乙第四十七號司法警察官職務細則ヲ定ム〇十九年十二月告示第百四十六號警察ニ關スル願届手續告示(二十一年六月告示第百六十八號更正)〇二十年二月告示第百二十七號警察署又ハ分署ヨリ免許鑑札ヲ受クヘキ營業願

ハ一通出サシム〇全年二月訓令第二十三號十八年三月乙第四十七號廢止〇二十一年八月縣令第八十三號警察區區畫改定

第三類 第一節 警察署

二 違警罪目

○明治二十三年六月十日縣令第八十七號

島根縣違警罪目別紙ノ如ク改定ス

(別紙)

島根縣違警罪目

第一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一 富鐵類似ノ所業ヲ爲シタル者

二 墓地及埋葬取締規則ヲ犯シタル者

第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一 贗造ノ飲食物ヲ販賣シタル者

二 病ニ斃レタル禽獸魚類ヲ食用ノ爲メニ販賣シタル者

三 生河豚ヲ食シ又ハ賣買受與シタル者但漁人又ハ商人ノ間ニ於テ乾魚ノ爲メニ賣買スルハ此限ニアラス

四 縣廳市郡役所警察署警察分署監獄町村並戸長役場等ノ召喚ヲ受ケテ正當ノ事故ナクシテ之ニ應セサル者

第三類 第一節 警察署

五 縣廳島廳市郡役所警察署警察分署監獄町村並戸長役場等ニ對シ故ラニ不實ノ申告ヲ爲シタル者

六 族籍住所氏名ヲ詐稱シテ宿屋ニ宿シタル者

第三條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾

五 錢以下ノ科料ニ處ス

一 毒藥並激烈ノ藥物ヲ用テ魚鳥ヲ捕ヘタル者

二 他人又ハ組合ノ田水ヲ斷ナク我田ニ灌漑シタル者

三 烈風ノ際濫リニ塵芥ヲ燒キ制止ヲ肯セサル者

第四條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

一 旅行免狀ヲ有セザル外國人ヲ私ニ止宿セシメタル者

二 他人ノ所有地ニ濫リニ牛馬ヲ放飼シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

三 強テ合力又ハ物品ノ購求ヲ乞ヒタル者

第五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一 河川湖水溝渠等ニ竹木瓦礫塵芥其他不潔物ヲ投棄シタル者

二 夜間十二時後公衆ノ安眠ヲ妨クル場所ニ於テ歌舞音曲其他喧噪シテ制止ヲ肯セサル者

三 他人ノ山林ニ於テ枝葉ヲ拾取リタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

四 禁止ノ榜示アル場所ニ尿管其他惡臭ヲ發スヘキ肥料ヲ載セタル船ヲ繫キタル者

沿革要領

明治五年十二月國子卜唱ヒ賣女同様ノ所業ヲナスモノ處置違○七年六月第二百八十八號舊式註違條例布達(全年六月第三百八十八號八年四月第四百四十一號正七年七月第三百六十號八年五月甲第二百號中施行延期)○九年二月甲第四十六號舊式註違條例布達(全年七月甲第二百四十一號舊式註違條例改定(全年八月甲第二百八十三號更正)○全年十月甲第三百五十四號全改定(十年一月丙第九號全年四月甲第一百二十二號全年八月甲第二百廿號十一月七月甲第九十二號全年十一月甲第三百一號十二月一月甲第九十九號全年十月甲第九十九號全年十一月甲第二百廿號全年十一月甲第二百廿六號全年十月甲第二百廿三號十三年五月甲第七十四號更正 ○十一年二月甲第九號舊式註違條例改定(全年四月甲第八十八號罰金店於テ音曲ヲ禁シ犯スモノハ處分ス○全年六月甲第五十六號全上取消○十四年十二月甲第九十七號違警罪目布達(十五年二月甲第三十五號全年五月甲第八十八號全年七月甲第七十四號全年八月甲第三百三十號全年九月甲第四百一十一號十六年三月甲第三十五號全年六月甲第六十三號全年七月甲第七十四號全年十月甲第四百四號全年十二月甲第二百十五號十七年四月甲第四十六號全年六月甲第六十三號全年八月甲第七十號全年八月甲第一百二十二號全年九月甲第三百一十一號十八年一月甲第廿號全年二月甲第四十五號全年三月甲第五十九號全年三月甲第六十二號全年三月甲第六十九號全年三月甲第七十號全年五月甲第九十三號全年六月甲第八號全年六月甲第一百十一號全年九月甲第三百三十七號全年十二月甲第六十三號全年十二月甲第七十二號十九年二月甲第十號全年二月甲第三十二號全年四月甲第五十四號全年五月甲第六十二號全年十月縣令第三十三號全年十二月縣令第五十七號二十年二月縣令第十九號全年三月縣令第四十號全年五月縣令第六十號二十一年一月縣令第十八號全年二月縣令第三十二號二十二年一月縣令第一號更正)

第三類 第一節 違警罪目

三 警察規則

● 街路取締

○明治二十一年一月十八日縣令第七號

街路取締規則別紙ノ通定メ明治二十一年三月一日ヨリ施行ス

街路取締規則

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水並橋梁トス
第二條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠リ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徵收ス

第二章 街路ノ安寧及保存

第三條 街路ニ建物軒檐旗柱招牌物干等ヲ設ケ又ハ出スヘカラス

第四條 左ニ掲クルモノハ街路ニ出スヲ得ヘキモノトス

- 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リニ尺以内
 - 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内
 - 三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内
 - 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内
- 第五條 左ニ掲クルモノハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ但

第三類 第一節 警察規則

- 第一乃至第五ハ戸長ノ與印ヲ要ス
- 一 數戸共用ノ爲メ飲用水井戸ヲ設ケル事
- 二 消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ノ置場ヲ設ケル事
- 三 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事
- 四 街燈ヲ建設シ又ハ樹木ヲ植ユル事
- 五 華表指導標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事
- 六 柵欄支柱又ハ上々椽ヲ設ケル事
- 七 屋臺店床露店ヲ出シ又ハ一時小屋掛若クハ接實張ヲ設ケル事
- 八 工事ノ爲メ路傍ニ竹木土石類ヲ置キ又ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事
- 九 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事
- 十 神輿山車手師屋臺又ハ舞臺ヲ出ス事
- 十一 神佛祭禮法會説教又ハ諸興行其他報告ノ爲メ榜標ヲ建設スル事
- 十二 神佛送迎ノ爲メ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛馬車ニテ運搬スル事
- 十三 車馬通行停止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事
- 第六條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ
- 第七條 街路ニ出テタル軒檐ニハ軒樋及堅樋ヲ設ケヘシ其堅樋ハ街路ノ地盤ニ出ヌヲ得ス但檐溜ノ下水ニ落ルモノハ此限ニアラス

- 第八條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模樣ニヨリ道敷ノ境界ニ壇塀ヲ設ケヘシ
- 第九條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強韌ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スルトキハ頓仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第十條 街路ニ沿フタル建物及樹木等崩壞頓仆ノ虞アルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ
- 第十一條 街路ニ竹木土石類ヲ置クトキハ標識ヲ設ケヘシ
- 第十二條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄せ標識ヲ掲ケヘシ
- 第十三條 地盤ニ凹所ヲ生シ通行危險ノ虞アルトキハ防圍ヲ爲スヘシ
- 第十四條 橋梁溝渠下水又ハ制札指導標便所牆壁ヲ毀壞壅塞若クハ汚損シ及街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス
- 第十五條 便所牆壁柵欄等ニ樂書貼紙ヲ爲スヘカラス
- 第十六條 街路ニ商品薪炭荷重其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス
- 第十七條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲナシ又ハ爲サシムヘカラス
- 第十八條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス
- 第十九條 街路ニ於テ放歌高聲シ若クハ喧噪醉臥スヘカラス

第二十條 街路ニ於テ松明又ハ裸火ヲ燭スヘカラス
第二十一條 街路ニ於テ袒褻裸体スヘカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十二條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス
第二十三條 街路ノ積雪ハ時々之ヲ掃除スヘシ但日没後日出前ハ此限ニアラス
掃除シタル雪ハ河海下水其他妨害ト爲ラサル場所ニ投棄スヘシ

第二十四條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ

第二十五條 汚水ヲ街路ニ洒注スヘカラス

第二十六條 下水ハ毎年二回四月十月浚滯スヘシ

其浚ヒ掲ケタル淤泥塵芥等ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス

第二十七條 街路ノ掃除ハ其兩側居住人ニ於テ中央ヲ限界トシテ負擔シ片側ナレハ其居住人全ク之ヲ負擔スヘシ但空屋空屋敷ナルトキハ其所有主ノ負擔トス

第二十八條 街路ノ廣場及橋梁下水等一町若クハ數町ニ關スルモノハ其關係町内ノ負擔トス

第二十九條 街路又ハ之ニ沿フタル河川ニ於テ蓋ナキ器物船等ニテ尿尿ヲ運輸スヘカラス

第二十條 街路ニ沿フタル乗船場ニ於テ尿尿ヲ載セタル船ヲ繫クヘカラス

第三十一條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十二條 街路ニ於テ敷物疊穀類其他ノ塵埃ヲ掃フヘカラス

第三十三條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十四條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ蓋被其他見苦敷ク若クハ危險ナル物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十五條 牛馬及諸車ハ街路ノ中央ヲ通行スヘシ

第三十六條 夜中燈火ナクシテ牛馬諸車ヲ疾驅スヘカラス

第三十七條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第三十八條 牛馬諸車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十九條 車二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限リニアラス

第四十條 人馬諸車ノ避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬及歩行者行進フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ掛聲ヲ爲シ前車ハ左ニ後避ケ車ハ右ヲ通過スヘシ

四 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ葬送等ニ行進フトキハ避讓スヘシ

第三類 第一節 警察規則

第四十一條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ
第四十二條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ
第四十三條 牛馬諸車其他ノ件物ヲ街路ニ横ユヘカラス但一時車輛ヲ路傍ニ駐正スルトキ
ハ其側面ヲ街路ニ向テ置クヘシ

第四十四條 制止ヲ肯ンセスシテ人ノ群集シタル場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

第四十五條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス

第四十六條 街路ニ停立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第四十七條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ噉シ又ハ驚逸セシムヘカラス

第四十八條 街路ニ於テ紙糞ヲ揚メ又ハ獨樂羽子手毬ヲ弄スル等通行ノ妨ケトナルヘキ遊
戯ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第四十九條 街路ニ於テ軍談輕業其他人寄セキ爲スヘカラス

第五章 罰例

第五十條 第三條第五條ヲ犯シタル者ハ貳拾錢以上壹圓以下ノ科料第六條第九條

ヲ犯シ官ノ督促ニ應セサル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料第十五條第二十條第二十六條第

二項第二十九條第三十條第三十一條ヲ犯シタル者及第二十一條第三十四條第三十七條第

三十九條第四十五條第四十九條ヲ犯シ制止ヲ肯ンセサル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料

ニ處ス但刑ニ法正條アル者ハ各其本條ニ依リ處分セラルヘシ

○明治二十一年一月十八日縣令第八號

街路取締規則ハ當分ノ内松江街及ヒ其接續連檐ノ地ニ限リ施行ス現在ノ建物軒檐物干等

ニミテ本則第三條ニ抵觸シ及ヒ第四條第二項ノ制限ニ適セサルモノハ明治二十二年中改造

又ハ除去スヘシ但從前拜借地ニ設ケアルモノハ其拜借年期中之ヲ存スルヲ得

○明治二十一年一月十八日縣令第九號

街路取締規則第一條第二條第五條第一項第二項第三項第四項第五項第十三項第六條第十條

第十四條第十五條第十九條第三十六條第三十八條第四十條第四十四條第四十七條ハ一般ノ

公道ニ適用シ全則第五條第八項第九條第十條第十一條第十八條第二十條第二十一條第二十五條第

二十九條第三十一條ハ人家稠密ノ地ニ適用ス

前條項ヲ犯シタル者ハ同則第五十條ニ依リ處分ス

●巨火ヲ扱フ建物取締

○明治十三年五月二十七日甲第七十七號

鑄物職工場及陶器職竈其他巨火取扱候建物ヲ人家稠密之地ニ設立スルハ甚ク危險ニ付自今

可成人家遠隔之地ヲ撰ミ若シ不得止人家稠密之地ニ取扱ケ度モノハ圖面相添所轉警察署ニ

願出指彈ヲ受クヘシ此旨布達候事

●町村火防組設置概則

○明治十八年三月十七日乙第四十二號 郡 町村

第三類 第一節 違警罪規則

町村火防組設置概則別紙之通相定候條右ニ照準施設可致此旨相達候事

町村火防組設置概則

第一條 土地ノ模様ニヨリ町村若クハ聯合町村ニ於テ本則ニ準シ火防組ヲ設置スヘシ
第二條 百戸以上連櫓ノ町村ニ於テハ左ノ如シ但百戸以下連櫓ノ町村ト雖モ成ルヘク相當ノ準備ヲナスヲ要ス

- 一 龍吐水 貳個
- 一 運水桶 貳荷
- 一 水田子 貳荷
- 一 手桶 拾個
- 一 竹梯子 壹脚
- 一 鳶口 大小拾本
- 一 標旗 懸ラ用ユル等便宜ニ任ス 一本
- 一 高張提灯 壹張
- 一 右ノ器械ヲ運用スルニ相當セル火防夫 一頭取壹人副頭取壹人
- 一 火防夫被服 頭巾法皮ノ類 但成ルヘク之ヲ給與スルヲ要ス

五百戸以上連櫓ノ町村ニ於テハ百戸以上ノ町村ニ二倍シ千戸以上ハ之ニ三倍シ二千戸以上ハ四倍三千戸以上ハ五倍トス但人家ノ最モ稠密セル町村ニ於テハ成ルヘク唧筒ヲ設置スヘシ且前項ノ外要用トスル器械ヲ設置スルハ便宜ナルヘシ

第三條 頭取副頭取ハ戸長之ヲ撰定シ火防夫ハ頭取撰定シテ戸長ノ承認ヲ受クヘシ

第四條 器械ハ毎年一月二月十月十一月十二月ニ於テハ毎月一回其他ハ臨時火防夫ナシテ手入ヲ爲カンメ兼テ其運用方ヲ練習シ器械ノ毀損等アレハ直チニ修理シテ實用ニ差支カルヲ要スヘシ且器械ハ之ヲ取絡メ其町村内最モ便利ノ箇所ニ備ヘ置クヘシ

第五條 町村火防組ハ専ラ警察官ノ指揮ニ屬スルモノトス但出火ニ際シ警察官ノ出張ナキ場合等ニ於テハ戸長之ヲ指揮スヘシ

第六條 戸長ハ本則ニ從ヒ町村火防組設置方法ヲ立町村會ノ評決ヲ經テ施行スヘシ(明治十八年五月乙第八十一號ヲ以更正)

但評決ノ條項ハ縣廳ニ報告スヘシ

第七條 消防組ヲ設置シタルトキハ其方法並器械ノ目錄火防夫ノ住所氏名等ヲ所轄警察署

ニ通知スヘシ但警察署ニ於テハ臨時器械並火防夫ヲ点檢スルヲアルヘシ

第八條 町村火防ニ屬スル費用ハ都テ其町村費若クハ聯合町村費ヲ以テ支辨スヘシ

出火ノ節心得

○明治十六年六月廿二日甲告第百四十一號

第三類 第一節 違警罪規則